

変化する高校生と大学への期待

— 高校から見た立教大学 —



立教大学
大学教育開発・支援センター

ISSN 1881-1035

変化する高校生と大学への期待

－高校から見た立教大学－

大学教育開発シリーズ

No. 3

立教大学

本号の刊行に当たって

2006年度から、新学習指導要領によって教育を受けた高校生が初めて大学に入学してきています。この新課程では、旧課程と比べて教科内容がおおよそ3割削減され、入試環境の緩和とあいまって、学生の基礎学力の低下が懸念されています。しかも現場の高校教員からは、低学年ほど学力低下の傾向は顕著になるという意見も聞かれます。

高校教育の現場では、今どのような変化が起きているのか。変化に対応し、よりきめの細かい進路指導や教育を行っていくために、大学、とりわけ立教大学に期待されていることは何か。こうした問題について、高校の先生方と一緒に考える場として、立教大学大学教育開発・支援センターでは、「変化する高校生と大学への期待～高校から見た立教大学～」という統一テーマでシンポジウムを開催しました。本誌はその内容をまとめたものです。

シンポジストには、都内の公立進学校、総合学科の公立高校、中高一貫の私立進学校、地方の公立進学校といったタイプの異なる4つの高校から、進路指導のベテランの方々にお越しいただきました。統一テーマに加えて「都立高校改革」「キャリア教育」「高大連携」「高校から見た大学教育」といった個別の担当テーマにも触れながらご発表いただきました。

快く報告をお引き受けいただいた先生方、また司会に協力いただき、会場から発言を惜しまれなかった参加者の方々に、企画に当たった者として感謝いたします。会場の参加者も交えた第二部のディスカッションも、とても熱気にあふれたものとなりました。本誌が今後の立教大学と高校とのパイプづくりのヒントになれば幸いです。

なお、各発表者の肩書きおよび資料で紹介されているサイトのアドレスは、シンポジウム実施当時のものであることをお断りしておきます。

大学教育開発・支援センター 調査役
足立寛

目 次

本号の刊行に当たって

シンポジウム

挨拶	1
発表 1：寺島 求氏	5
発表 2：千葉吉裕氏	15
発表 3：坂詰貴司氏	29
発表 4：鷺尾雄慈氏	41

ディスカッション 49

〈資料〉

資料 1：寺島 求氏	62
資料 2：千葉吉裕氏	74
資料 3：坂詰貴司氏	82
資料 4：鷺尾雄慈氏	85

変化する高校生と大学への期待

－高校から見た立教大学－

2006年7月13日（木）に行った
シンポジウムの記録

プログラム

挨拶

大橋 英五（おおはし ひでいつ）氏
立教大学総長

檜枝 光太郎（ひえだ こうたろう）氏
大学教育開発・支援センター長、理学部長

〈第一部〉 シンポジウム

発表者

寺島 求（てらしま もとむ）氏
東京都立八王子東高等学校教諭・進路指導主任

千葉 吉裕（ちば よしひろ）氏
東京都立晴海総合高等学校教諭・キャリアカウンセラー

坂詰 貴司（さかづめ たかし）氏
私立芝中学校・高等学校教諭、元広島大学高等教育研究開発センター客員研究員

鷲尾 雄慈（わしお ゆうじ）氏
新潟県立三条高等学校教諭・教頭、06年度特色GP 選考委員

〈第二部〉 ディスカッション

総合司会

小川 有美（おがわ ありよし）氏
立教大学法学部教授

司 会

足立 寛（あだち ゆたか）氏
大学教育開発・支援センター調査役

日 時
場 所

2006年7月13日(木)18時
立教大学池袋キャンパス 8号館8202教室

第一部 シンポジウム

「変化する高校生と大学への期待―高校から見た立教大学―」

挨拶―立教大学の教育を良くするために

小川 2006年度、大学教育開発・支援センター主催シンポジウム、「変化する高校生と大学への期待―高校から見た立教大学―」を開催いたします。総合司会をさせていただきます、法学部の小川^{ありよし}有美です。よろしくお願いいたします。

開会に先立ち、総長の^{ひでいつ}大橋英五より開会のごあいさつをさせていただきます。大橋総長、よろしくお願いいたします。

大橋 総長の大橋でございます。今日はお忙しいところ、皆さんお出かけくださいまして、ありがとうございます。また、先生方にはシンポジストということで、お忙しいなかお出かけくださいまして、ありがとうございます。

今、大学が非常に難しい時期にきているとよく言われます。それは、何も18歳人口が減って、それで大学の運営が難しいということではなくて、もちろんそういうこともありますけれども、そういうことよりも、私たちの大学が置かれている状況を考えますと、むしろ現在の若い人たちがどういう資質でどういう考え方で、どういう状況のなかで大学に来てくれるかということをしちゃんと把握しきれないところがいろいろあります。大学がどういう研究をしていくか、あるいは大学がどういう教育を提供しなければいけないかということについては、長年の蓄積、それから研究の新しい発展としてどんどん展開していくことを進めています。例えば立教大学ですと、文学部から現代心理、経済、社会から経営学部というような展開をして、細分化して、新しい教育領域、研究領域を広げていくことをしています。



大橋英五総長

学生さんに大学に来ていただいて、それでどういう資質でどういう問題意識で、どういうことまで対応しながら勉強していつてくれるのかが、どうもはっきりしない。今日は先生方に、今の高校生の実態や考え方、現状を少しゆっくりと教えていただいて、私たちの大学での新しい教育を展開していきたいと思っています。

お忙しいなかお出かけくださいまして、本当にありがとうございます。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

小川 続きまして、大学教育開発・支援センター、センター長の檜枝光太郎より、ごあいさつを兼ねてシンポジウムの趣旨についてご説明させていただきます。

檜枝 檜枝でございます。今日はお集まりいただきましてありがとうございます。今回のシンポジウムは、外から見た立教大学というシリーズで、昨年の秋に続いて第2回ということです。前は予備校の方やOBの方をお呼びして実施したのですが、今回は私たちにとって一番密接な高校という視点から、いろいろお話をうかがうということになっています。そういうことで、私たちにとっては大変有益なシンポジウムだと思っています。それから、ちょっと私たちのセンターのことを宣伝させてください。本日、お配りしていますが、ニューズレター「MOVE」の第1号を昨年12月につくりました。「MOVE」は、「More Valuable Education」を略したものです。この中を見ていただくと、私たちのセンターの様子が分かりますが、私たちは立教大学の教育を少しでもよくしようということで頑張っています。

その一つとして本日のシンポジウムがあります。他にも、たとえば学生による授業評価アンケートです。これはどこの大学でもやっていますが、私たちはそれを使って立教の教育がよくならなかったら意味がないだろうということで、得られたアンケートなどから授業をよくするためのヒントを集め、「RIKKYO 授業ハンドブック」という簡単なブックレットを作り、全教員に配布するというのもしています。これからはますます立教大学の教育改善のために私たちは頑張っていきたいと思っていますので、ぜひよろしくお願いします。先生方、よろしくお願いいたします。

小川 本日のシンポジウムは、まずパネリストの先生方のプレゼンテーション、次にパネルディスカッションの2部構成で進める予定です。8時半ま

での長時間となりますが、最後までお付き合いいただきますように、よろしくお願いいたします。3人の先生のプレゼンテーションのうちに、休憩時間も設ける予定です。

ここからはコーディネーターの、本大学教育開発・支援センターの足立寛^{あだち}さんに司会をバトンタッチしたいと思います。足立さん、よろしくお願いいたします。



榎枝光太郎センター長

発表者紹介

足立 足立でございます。今日はよろしくお願いいたします。

今日のシンポジウムですが、大学についてずっと見てこられた高校の先生方にお集まりいただいて、高校のそれぞれのお立場から、いろいろな話をさせていただこうと考えています。4人の先生に20分ずつお話をいただきます。ただ途中休憩を入れたいものですから、3人の先生のお話が終わった段階で少し休憩を入れさせていただいて、最後お一人の先生にお話しいただいたあと、ディスカッションおよび質疑応答のようなかたちで進めさせていただこうと思っています。

それでは、本日のパネリストの先生方をご紹介します。皆さま方から壇上に向かって右手のほうからご紹介させていただきます。まず、新潟県立三条高等学校の鷲尾雄慈先生です。鷲尾先生は去年までの特色GPの選考委員でもいらっしゃいました。今年については、審査が終わらないと委員名を公表してはいけないものですから、私から確たることを申し上げるのは控えさせていただきますが、おそらく今年も委員をなさっていらっしゃるのではないかと思います。

お隣が、芝中学校・高等学校教諭の坂詰貴司先生です。坂詰先生は、以前、広島大学の高等教育研究開発センターの客員研究員でもいらっしゃいました。

そのお隣りが、都立晴海総合高等学校教諭の千葉吉裕先生です。晴海総合高校では、キャリアカウンセラーというお立場でもあり、高校のキャリア教



足立寛調査役

育に大変造詣の深い方です。

最後に、一番左手にお座りいただいているのが、都立八王子東高等学校の寺島求先生です。寺島先生は、長年、八王子東高等学校の進路指導主任をされていらっしゃいます。進学校の進路指導についてはまさにプロの先生です。

以上の4人の先生方にご発表いただいて、その後ディスカッションというかたちにしたいと思います。

それから、お話しいただく内容ですが、先生方に共通のテーマとして、「新課程における高校生の変化」「高校から立教大学の教育・入試などに望むこと」を設定させていただきました。それらに加えてそれぞれのお立場から、寺島先生には「都立高校の改革」を、千葉先生には「高校におけるキャリア教育」を、坂詰先生には「高大連携」を、鷲尾先生には「高校から見た大学教育」についても触れていただく予定です。

では寺島先生からご発表いただきますようよろしくお願いします。

(発表1) 寺島 求氏

だらしない生活の生徒は成績が悪い

寺島 失礼いたします。八王子東高等学校で進路主任をしております寺島と申します。

本日は高校の現場で進路指導がどんなかたちで行われているのかという話をさせていただきます。用意させていただいた資料なのですが、これはあとで説明します。一応、八王子東というのはこんな学校だということを話します。たぶん都立のなかでは新しいほうに属するのではないかと思います。今度入学した1年生が31期生という、比較的新しい学校ですから、八王子東なんて高校は聞いたことがないという方もいらっしゃるのではないかと思います。東京都は2001年、都立高校改革の一貫として、進学指導重点校を指定しました。ミッションとしましては、難関大学、いわゆる東大、京大、東工大、一橋、国公立医学部にも都立高校から合格者を出せということです。そのときに、日比谷高校、戸山高校、西高校とともに、八王子東高校も一緒に指定されました。

資料の説明をします。1枚目(p62資料1-【1】)は今年の本校の大学合格者数で、こんな学校かと思って見て下さい。2枚目(p64資料1-【1】)にいきまして、私立大学の合格者はどうなのかということで見ますと、立教大学には現役で19名通りまして、過年度と合わせて48名ということです。今年はかなり立教大学さんに通していただきました。これは受験者も増えているのではないかと考えています。のちほど触れますけれども、本校における立教大学の評価というのは上がっているのではないかと考えています。指定校推薦のほうでもやはり1名、現代心理学部心理学科のほうでお世話になっています。指定校推薦による進学は2ページの右上のほうに書いておきました。多くの推薦枠をいただきながらお返しするという現状でありながら、立教大学さんのほうに1名お世話になっているというのは、立教大学の評価の高さではないかと判断しています。

参考までにあげておいた、他の進学指導重点校との対比資料に、ご関心のある方は東京都教育委員会のホームページのほうにアクセスしていただくと、進学指導重点校の取り組みというのがあります。そこにご覧いただきますと、詳しく書いてあります。



次は、私立大学合格者といっても学部やセンター利用とかもろもろありますので、このへんをまとめたものです(p 65資料1-【3】)。入試課からいただいた資料をもとに作りました。立教大学さんから一番先にいただきました。非常に丁寧な

資料で一般入試、センター利用、現役、浪人ごとに分類してありました。資料をいただいたほかの私立大学との資料と合わせて用意させていただきました。

本校は基本的に国公立大学の進学者が非常に多くおります。国公立大学に合格すると、基本的に国公立大学に進学します。しかし、ここに書いた10名は国公立大学を辞退し私立大学または首都大東京に進学しました(p 67資料1-【4】)。最後の国立看護大学校は、正確に言えば国立大学ではありませんけれども、生徒の意識のなかでは国立大学という意識がありますので、そこへまとめさせていただきました。私立大学は合格者がたくさん出ても、どれだけ行くのかが大事なと思います。ではどれだけ行っているのかということで、進学したのは結局89名であるということです(p 67資料1-【4】)。早稲田からスタートして、立教大学が3番目で8名お世話になっているということです。今までは3番目が、本校は八王子市にあるもので、地元の中央大学にお世話になる生徒が多かったのですが、今年はその中央大学のほうを、1名ですけれどもお世話になる生徒が上回りました。

次(p 68資料1-【5】)ですが、本校の特徴として、「文武両道」ということが言いたい資料です。全国各地、文武両道ということはどの学校でも決まり文句のように言っていると思います。では、実際にはどうなのかということで、個別の部活動名を出すと個人情報になりますので、運動部・文化部・無所属というかたちで進学者をまとめました。左のほうからA段階、B段階、C段階、C段階に達しなかった生徒の部活動と進学先ということです。これは教員が自分の学校を評価するにあたりまして、ちゃんと文武両道させ

たかどうか、検証するために進路部で用意した資料です。

概況をまとめますと、現役進学率が57.9%で、約6割 (p69資料1-【6】)。特に男子のほうは低いです。男子のほうはどうしても、いわゆる滑り止めを考えるよりも、第一希望優先で考えます。駄目だったら1年ぐらい浪人してもいいやというようなことです。しかし、これだけ男女差が出ているのは、女子のほうがちんちん考えている



寺島求氏 (都立八王子東高等学校教諭)

のかもしれないです。他の進学指導重点校でも、男子の現役進学率が低く出ているのではないかと考えています。のちほど都立高校改革で触れますけれども、第2グループ、第3グループと言われる都立校のほうが進学率は高くなっていると思います。進学状況はあとでご覧になっていただければ、分かると思います。

次にまとめたのが八王子東高校の進路指導の基本スタンスということです (p70資料1-【8】)。「28期生学年団としての取り組み」(p70資料1-【9】)というのは、今年卒業させた担任の先生方の取り組みをまとめさせていただいたものです。それから、「28期生担任から」(p71資料1-【10】)というのは、その担任団が進路指導を通して具体的にどうやって生徒と格闘していったかというのを、それぞれのクラスの担任が語ったものです。ですから、これもあとでお読みいただければ、八王子東の担任は生徒とこんなかたちで格闘しているということをご理解いただけるのではと思っています。

最後のページ (p72資料1-【11】) ですが、本校の一つの取り組みである、遅刻をさせない指導の結果です。当たり前のことですが、やはりだらしない生活の生徒は成績が悪い。進学指導重点校であっても、遅刻指導からスタートしなければならないというのが現実です。それともう一つ、評定平均とセンターの得点率の資料は、本校の教科担当に対して、きちんとした評価をしているか検証してもらうものです。要するに、校内の評価とセンター

試験の成績が乖離するようであっては、正しい評価がされていないということで作った資料です。以上が用意した資料の説明です。

今の生徒は手をかけるしかない

シンポジウムの本題に移らせていただきます。私への課題は、新課程の高校生は学年によってどのような資質、学力、思考の違いや特徴があるかということです。皆さんもご存じのとおり、基礎学力はやはり低下しています。基礎学力とは何か。私の担当は数学ですけれども、具体的にどんなことがあるか話します。八王子東高校は進学指導重点校ですけれども、1年生を教えてまず驚いたことの1つに、「一次不等式の解法」が定着していないことが挙げられます。これは中学校から削除されたので仕方がないにせよ、なかなか身についてこない。あるいは、「2次方程式の解の公式」が定着しない子もいる。

それから、2、3年生の演習授業では、今までですと、立式する、ポイントを話す、ここまでくればあとは自分で計算すればできるね、やりなさいというとはほぼ全員が解き始める。ところが、最近は自分でやれない生徒がいる。先生が解いてくれるのを待っている。これでは学力低下するかもしれない。

また、世界史の先生におうかがいした話だと、世界史には中国史とか、いろいろな分野があるそうですけれども、中国史になると平均点がぐんと下がる。漢字が書けない。分かっているけど誤字・脱字で正しい漢字が書けないことが起きている。そういうことで、基本的な読み書きそろばんですか、読む力、書く力、計算する力の3つはやはり落ちています。これは事実だと思います。

一方、基礎学力が落ちているからといって、立教大学を含めて大学入試の問題が易しくなっているかというと、そうではない。だから、高等学校は今、3年間でどうやって基礎学力が落ちた生徒の学力をどうやって上げるか。要するに、大学が要求する水準までどうやって学力、あるいは意欲を上げていくかということに必死に取り組んでいます。八王子東の場合ですと、学力格差も開いていますから、個別対応を重視しています。また、英語や数学の授業のなかで習熟度別授業をやっています。週5日制で授業時間も足りなくなる。本校の場合ですと、年間18回、土曜日活用ということで公開授業を行っ

ています。これは授業時間数確保の意味合いもあります。諦めるというのは言葉が悪いですが、今の生徒に対しては手をかけるしかないだろうと諦めています。それに、学力が低下したといっても子どもだけが悪いわけではないですね。自分で学習指導要領を選んだわけではないですから。やはり子どもに学力低下の責任はないだろうと考えます。だから、中学までの基礎学力が低下したため八王子東の授業についてこれない。劣等感を持たせた。入学させた以上それでは申し訳ない。しかも八王子東に入った以上は、それなりのレベルの大学までは指導してほしいという保護者のニーズもある。そんな現状の中、最近の進路指導、教科指導はある意味で非常にやりがいのある仕事だと思っています。

保護者にも教育理念を語ることが大事

子どもの変化以上に大きいのは保護者です。もう圧倒的に保護者が変わってきている。私は今年で八王子東は9年目ですので、保護者ともずいぶん長くかかわらせていただいています。今の高校生の保護者というのは、青春時代にバブルを経験した世代ではないでしょうか。その保護者に育てられた生徒たちが入ってくる。私などが親から受けた教育と、今の生徒が親から受けている教育はたぶん根本的に違っていると思います。ですから、保護者に対して、学校ではどう考えるかということ、学校としての理念、教育理念をいかにして語るかが大事であると思います。八王子東の取り組みのなかでも書きましたけれども、学校の指導方針をいかにして保護者に理解・共感してもらうかが重要です。先ほどから申し上げているのですが、ネガティブに考えてもしょうがない。子どもが学力低下したことについての犯人捜しをしたところで子どもにとってよくならない。とにかく今いる目の前の子どもたちをいかにしてレベルアップさせていくか。それには何ができるかを考えるしかないというのが八王子東の教員の共通理解であると思います。高校は、企業と違いますから、利潤追求的なところで共通理解を持つのは厳しいのですが、今のところ、とにかく入ってきた目の前の生徒をなんとかしよう。なんとかするためには、できることは何でもしよう。講習もするし補習もする。ただ一方で、こういうことをやっていて自立性は育たないのではないかという気持ちもあります。自主性については、教科ではなく、大学受験を

通して、自分で選択して、受験をして、自己責任で入っていくということで進路指導が担っていくほうがいいのかと、私は思っています。

影響力が大きい私立大学のブランド力

2番目に、高校生の大学選びの視点ということでお話しさせていただきます。皆さんご存じの通り学部学科研究というのはずいぶんやっています。1年生のうちから職業を知ろうとか、学部学科を調べようとか、かなり丁寧にやっています。それから、この大学のこの学科を出たらどんなところに就職できるのかと、具体的な会社名なども生徒は気にしています。この大学のこの学部を出たらこういう会社に勤められるのかと。会社に入ってから仕事内容などは高校生は分かりません。ただ、イメージとしてそんなことから大学を選ぶこともあります。では、学部学科研究で、例えば法学部を希望した生徒が本校にいますと。法学部ではどこでも行くかといったら、決してそんなことはありません。ある程度のブランド力のある大学までは受験しますけれども、やはりある程度以下のところは受験しません。学部学科による大学選びは確かに進んでいますけれども、現実として、特に私立大学のブランド力というのはものすごい影響力がまだ残っていると私は思っています。

あと、文系は当然かもしれませんが、理系の生徒も含めて英語力を気にします。英語力というのは、話せる英語です。これは理系の生徒であってもかなり意識していると思っています。そんなところから高校生は大学を選んでいくのではないかとと思っています。

もう一つ、よく大学関係者は模試の偏差値、ランキング的なことを気にしますけれども、生徒のほうは、今はあまりランキング的なことは気にしていないのではないかと思います。駿台、河合、代ゼミ、いろいろ模擬試験をやっていますけれども、模擬試験を受けて、その成績を見て大学を選ぶ子はまづいなくなりつつあるのではないかと感じています。

立教大学は第2志望で入ってもそれなりに満足

3番目に、高校、高校生が歓迎する大学の教育的な取り組みということについて話します。今言ったように、専門教育もさることながら、やはり英語力であるとか、もっと言うと、これはもしかしたら高等学校からのお願いに

なるのかもしれないけれども、高等学校ではなかなか教養教育的なことができていません。先ほど申し上げたように、基礎学力が低下しており、どうしても科目ごとの授業中心になっています。もっと広い範囲で見るような指導をすればいいのかもしれませんが、やはり入ってくる生徒の学力が下がる、要求学力は一定である。そのギャップをいかに埋めていくかということを見ると、残念なのですけれども、なかなか教養教育まで手がまわらないというのが現実です。ですから、そういうところを大学のなかで補っていただければありがたいと思っています。

これは全般的に言えることかもしれないのですが、科目を越えた教養、いわゆる一般常識的なことに対する理解力はすごく落ちています。これはたぶん小学校で社会科の学習時間が十分取ることができない影響があると思います。あるいは、小学校の歴史が人物中心で、あまり流れを考えずにやっているような影響もあるのではないかと思います。日本の文化、歴史、伝統といったことを含めて、教養的なものはかなり落ちている。高等学校ではそこまでなかなか手当ができていないというのが現実ではないかと思っています。

4番目は、立教大学の教育、入試、募集広報について望むことです。私は、はっきり言って立教大学の教育を評価しています。というのは、こういった言い方は失礼かもしれないのですが、本校で立教大学に入学させていただいた学生は、指定校推薦の子以外、第一志望の子はほとんどいません。ただけれども、帰ってくるとほとんどの子がやはり立教をよく言ってくれる。つまり、立教大学は第2志望で入った学生でも、それなりに満足するような状況をつくってくれているのではないかと思います。それは卒業生とのやりとりからの判断です。八王子東を卒業して、立教で4年間お世話になって、学校に戻ってきたときに、この大学に行ってよかったという話を聞かせてくれるので、私はこの立教大学はきちんとして教育してくれているのではないかと思っています。

私も進路指導の立場ですから、いろいろ情報を得ていますが、立教大学は、全力をたぶん最初に導入した大学ではないかと思っています。あるいは、そこにおける英語教育も先駆的だと思っています。日本各地でいろいろな大学が全力をまねしたような取り組み、あるいは4年間語学をやらせるよう

な取り組みをしています、二番煎じのような取り組みもあります。

全学共通カリキュラムは常に検証してほしい

いろいろな大学をまわっていると、こう言った言い方は何ですけれども、同じ「MARCH(明治、青山、立教、中央、法政)」と言っても、中央、明治というのはやはり学部ごとの色が強く出過ぎているのかなと感じています。もちろんそれは大学のカラーだからいいのかもしれませんが、立教大学の場合は学部もさることながら、学部が非常にバランス良くまとまって、一つの集合体のようなことを私は感じています。そういった面で、教養教育であるとか、語学教育というのはしっかりされていらっしゃるのではないかという評価を私はしています。

ただ、全カリをやって10年近くになるのですかね。やはり常に検証はしていただきたいと思います。私は今年から進路部長に戻ったのですが、実は担任したクラスの生徒が立教大学でお世話になった。しかし、その子は合わなかった。はっきり申し上げて、全カリの英語の教育のなかで、やはりしっかりこない部分があった。そういう学生も出ている。その子は少人数クラスと言っても、それほど少人数ではなかったというようなことを言っていますけれども、やはり悩んでいる学生も実際にいる。ですから、全カリのなかの英語教育も含めて、常に検証をしていただきたいと考えます。パイオニア的な取り組みをなさっているということは、私は評価したいと思っています。

それからもう一つ、関連してお願いしたいことがあります。あまり資格、資格と、ここはたぶんそんなことは言っていないと思うからいいのですけれども、私立大学はすごく資格を取らせようということを、ずいぶん熱心に行っているところもあると思います。そういう大学はそういう大学でいい。立教大学はそういう資格ではなくて、もっと教養的なところ、基礎的なところをやはり大事にしていってほしいと思います。ダブル・スクール化する大学というのはやはりおかしいと考えます。大学は大学としてのプライドを持って学生をきちんと指導して頂きたいと思っています。

あとは、入試についてです。入試については、高校3年間の学習活動を評価する入試をきちんとやってほしいと考えます。あまりアラカルトに走るとか、そういったことは決してやってほしくないと考えます。先ほど高校で

教養教育ができていないと申し上げましたが、これは事実です。例えば英語の入試問題のなかで、日本の文化・歴史などがきちんと理解できていないと内容が読めないような英文を出すとか。あるいは、高校のなかに情報という科目が入っていますので、ある程度、情報の知識がなければ、情報化社会ですから、情報をきちんと勉強してこななければ、内容が理解できないような入試問題を出题するとか。そういったところで工夫ができないものなのでしょうかというお願いです。そうすることによって、高等学校の教育も少しずつ変わっていくことを、実は願っているわけです。

国公立大学志向が強まる都立高校

そろそろ時間ですので、最後に、都立高校の改革の進行状況と今後の予測ということをお話します。これからどうなるかわからないのですが、都立高校の改革というのは行政指導で行われます。進学指導重点校も校長の発表よりも先にプレスが発表したというようなことで、東京の都立高校の教育改革はすべてプレスからわかると言われていています。行政主体で悪いかというと、建前としてはよくないのでしょう。

例えば、進学指導重点校に5年前に指定されました。何だ、今さらという感じでした。ところが、やはり改革というのは初めからうまくいくわけではないので、ぎくしゃくしましたけれども、5年たってみると、進学指導重点校というのが認知されてきましたし、難関大学といわれる大学の合格者数、それから特に国公立大学への合格者数が増えているのです。それはたぶん親の経済的な影響も非常に大きいと思っていますけれども、そんなところで、一応都民のニーズに合うような進学指導体制が組むことができつつあるのではないかと判断します。だから、結果オーライかもしれないけれども、今のところなんとかうまく進んでいるのではないかと思います。もちろん「君が代」の問題とか、職員会議の問題とか、いろいろ問題はありますが、一応進学に関して言うと、改革が進んでいるのではないかと思います。

都立高校のなかで進学指導協議会というのがあります。これは進路主任や校長、副校長、管理職が集まる会議なのですけれども、それを大きく分けて3つに分けました。行政のほうでグループ1、グループ2、グループ3と。グループ1というのが、いわゆる進学指導重点校、日比谷、戸山、西、八王

子東、青山、立川、国立、国分寺といった高校。第2グループというのが、皆さんご存じのとおり中高一貫校、つまり中等教育学校で、小石川高校、両国高校、武蔵高校、九段高校など、全部で11校あります。ですから、グループ1が8校、グループ2が11校。それからグループ3として、かつての名門ですよね。三田高校、小山台高校、駒場高校、新宿高校といったところ14校がグループ3というかたちでの進学指導協議会です。私の個人的な観測では、進学に関しては進学指導研究協議会の高校が中心になってやっていけということではないかと思っています。

都立高校改革で大きかったことは自校作成問題だと思います。自分のところで入試問題を作成しろということです。これは入れた東京都教育委員会もそこまで予想していたか分かりませんが、中学校、あるいは中学校の塾の先生から聞いたお話なのですけれども、中学生が都立高校を選ぶときにまずどうするか。自校入試をやる高校か、一般入試でやる高校かでまず選択してくるようです。自校入試をやる都立を目指す子は、かなり早めに受験勉強をスタートさせている。だから、結果として自校入試をやっている子には、学力低下はあるものの、そのなかでも、集団のなかとして高いレベルの生徒が集まってくるような傾向があるようです。

もう一つは、これは立教大学にとっていいことか悪いことか分かりませんが、かなり国公立大学指向が強くなっています。都立高校全体では5教科7科目の受験率が上がっています。本校ですと、卒業生は316名で、270名が5教科7科目を受けています。

そろそろ時間になりましたので、終わらせていただきます。また何かありましたら、のちほどよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

(発表2) 千葉吉裕氏

本来の教育活動こそがキャリア教育

足立 寺島先生、ありがとうございます。それでは続きまして、千葉先生、よろしくお願いします。

千葉 こんばんは、千葉です。よろしくお願いします。高校におけるキャリア教育という視点が私に課せられたテーマですので、最初に、キャリア教育に関する誤解から話をさせていただこうと思います (p 74資料2-②)。

キャリア教育、キャリア教育と言われていますが、職業教育がキャリア教育ではないかとおっしゃっている方が非常に多くいます。これは非常に狭い意味でのキャリア教育で、キャリア教育そのものではありません。このような誤解を生じた背景には、中教審(中央教育審議会)の答申のなかで、最初に、キャリア教育を「望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義してしまい、十分に、キャリア教育について議論されないまま、キャリア教育という文言が使用され続けたためだと思います (p 74資料2-③)。職業観・勤労観を育てるのがキャリア教育という認識でスタートしてしまったため、職業教育がキャリア教育という解釈になってしまったのだと思います。のちに、有識者による協力者会議を文部科学省は立ち上げ、キャリア教育の定義や内容などを検討しています。初めに中教審答申で定義してしまっているものですから、これと齟齬のないようにキャリア教育を定義しなくてはならなかったのです。

キャリアの定義は人生の生涯にわたって役割などがあって、働くことに関係づけだとか価値づけの累積という、一般の人が簡単には理解しにくく学問的な言葉で示されています (p 74資料2-④)。これを元にしながらキャリア教育というのは何かというと、「キャリアの概念に基づき、児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」という、難解な定義をしているわけです。そして、そのようなキャリア教育を実施することによって、「児童、生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる」という、最初の中教審の答申を肯定するかたちで齟齬を生じないように工夫されています。

キャリアの定義は、多くの学者が示していますが、一番一般的なのが、



千葉吉裕氏（都立晴海総合高等学校教諭）

スーパー博士の定義だと思います（p 74資料 2 -⑤）。キャリアの中に働くことが入るのは当たり前で、働くことはキャリアの一部なのです。他には「学ぶこと」、それから「遊ぶこと」。遊ぶといっても、playではなくてhobbyです。ですから、work、academy、hobby。それから、「暮らすこと」とまとめたのですが、family、communityというのがキャリアだと言っています。

ですから、先ほどの生涯にわたっての役割と書いてあった部分は、簡単に言えば人生そのもの、働くことであったり、学ぶことであったり、遊ぶことだったり、暮らすこと。自分の人生をどう豊かにしていくかというのがキャリアなのです。

学校教育は、今までもキャリアの基礎をつくってきたわけです（p 74資料 2 -⑥）。能力や態度、価値観を形成していくことが学校の役割ですから。そこで、本来の学校教育の役割を再確認して、本来の教育活動をおこなおうというのがキャリア教育の趣旨だと理解しています。それが、今回のキャリア教育といわれている教育なのですね。

はたらき、学ぶ意欲を高めるキャリア教育を

文部科学省は、臨教審以来、これまでもキャリア教育と同じことをいろいろな言葉で表現してきました。「自己教育力」や、「在り方生き方の進路指導」、「生きる力」、いろいろな文言を出してきたのですが、反応は今ひとつよくなかった。今回、キャリア教育という文言で表現したら、非常に多くの人が関心を持つようになり、一大ブームになってしまいました。そうすると、職業教育をキャリア教育と考えたり、就職支援をキャリア教育と考えたり、進路指導がキャリア教育だという人がいたり、勝手に解釈をする人がいますが、文部科学省が、学校教育イコール、キャリア教育だと言っています。だ

から、キャリア教育イコール進路指導ではなく、キャリア教育の中核の1つに位置づけられるのが、進路指導なのです (p 75資料 2-⑦)。

文部科学省が、前に示した施策は「生きる力」です (p 75資料 2-⑧)。そのなかでは、「確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を育成しましょう」と言っていました。それに続き、はたらく意欲、学ぶ意欲を高める活動をキャリア教育です。はたらくことも、単純に労働ということではなくて、ひらがなで「はたらく」とあえて書いてあることにも注目しなくてはなりません。ボランティアなどの社会とのかかわりも含めながら「はたらく」こととしています。そして、はたらくことだけではなくて、学ぶ意欲を高めることを含めています。

今回、中学校でキャリアスタートウィークが始まりました。5日間の職場体験です。キャリアスタートウィークのキャッチフレーズは、「学ぶこと、はたらくこと、生きること」という3つの言葉をキャッチフレーズにしているのです。だから、キャリア教育はすぐに就職、職業と密着していると考えてほしくありません。意欲を高めていけば、子どもたちの力はどんどん、どんどん伸びていくと考えられます。

今は数百年に一度の変化の時代

では、なぜ、今、キャリアなのでしょう。皆さんもうご存じの部分もたくさんあると思うのですが、改めていろいろなものを確認させていただきたいなと思います。

一つの理由は、変化のスピードが非常に早くなったことです。素早く変化する時代に求められるスキルが何なのか。それをどのように高めていったらいいのかということを考える必要ができました。例えば、大学在学期間の4年間というスパンで情報分野の変化を考えてみると、4年前というと、電話回線からISDNに変えて、ちょっと気が早い人はADSLを使ったという時代なのです (p 75資料 2-⑨)。わずかその4年間のうちに光回線まで来てしまうわけですね。わずか1メガバイトの情報のやりとりに4年前は満足していたのが、4年たってしまったら、ギガだとか、非常に大きな情報量の交換になってしまったわけです。そうすると、大学4年間で、子どもたちが入学したときに、こういう技術を身につければいいなと思ったら、出ると

きにはもう使えない技術になってしまっているというぐらい、変化のスピードが早くなってきているのです。すると、4年先、また10年先、長い先を見通した人材形成に入っていけないといけないのではないのでしょうか。これは、大学だけではなくて、高等学校の人材形成に関しても、それを見据えながら成長させていかなければいけないだろうと考えています。

このスライドは時代が変わっていることを中学校の保護者などに説明するスライドです（p 75資料2-⑩）。レコードなんか、死語になりつつあります。それがCDに変わり、今では音楽配信です。公衆電話もだんだん少なくなっています。今、携帯電話の普及で利用者が少なくなっていますから。年賀状を売り出す時期になると、今年も年賀状の売り上げ枚数が減ったということが話題になります。ハロゲン写真カメラは少なくなり、デジタルカメラが普及してきています。そうすると、今まであった産業がなくなったり、今まであった職業がなくなったりしてしまう時代なのです。こういう時代の中で子どもたちはどう生きていけばよいのか、どういう力を今つけなければいけないのかということが、キャリア教育を行う背景にあるわけです。

このような大きな変化は、蒸気機関の発明のときに起こっています（p 75資料2-⑪）。その時代も同じように産業がなくなったり、職業がなくなったりしました。職を奪われた人たちは、自分たちの職に取って変わった機械を壊そうと暴動を起こしたりしています。こんなものができたから、私たちの職業がなくなったのだと。まさに今同じ状態が起ころうとしています。発想を逆転させ、数百年に一度の変化の時代を今生きていると考え、子どもたちの新たな教育を考えていくことは、非常に面白いことだと感じています。

知識・才能から関心・意欲・態度へ

経団連の調査でも、どこの学校の出身かで採用しなくなっていることが示されています（p 75資料2-⑬）。明らかに新しい時代に対応するスキルで判断されているのがわかります。コミュニケーション能力であったり、チャレンジ精神であったりします。企業の採用行動も変化も踏まえて、何をしなければいけないのか、学校現場は真剣に考えなくてはなりません（p 75資料2-⑭）。

このような時代変化を踏まえれば、先ほど述べたようにはたらく意欲や学

ぶ意欲をつけることが非常に大事になってきているのです (p 76資料 2-⑮)。今、学んでいることがすぐに古くなってしまいう時代に、新しい知識を学んでいくためには、どうしたらよいのか、生涯にわたって新しい知識を学び続けるためにはどうしなくてはいけないのか。だから、意欲・関心を高めることが大切なのです。このことは、すでに1992年の時点で、文部科学省から発信されています。この年に学習指導要領の基礎・基本が変わったのです。どう変わったのかというと、それまでは知識・技能を習得することが学校での学習のねらいだったわけです。それが今では新しい時代を読んで、関心・意欲・態度を身につけることに変えたわけです。さらに、文部科学省の中で何が起こったかということ、明治以来、筆頭局だった初等中等局を、それまで4番目の局だった社会教育局を生涯学習局と名前を変えてトップに変えてしまったわけです。学校教育自身も、これから生涯教育のなかでどういうことをやらなければいけないのかということを考える時代になってきたわけですね。

これからの時代では、やはり教わることでなくて学ぶこと、そして自分で自分のことを成長させること (p 76資料 2-⑯)。そして、高い能力・専門性をどのようにつけさせていうかが、これからの時代のなかでは重要になっていると考えています。高等学校でやるべきことは、知識・技能を教え込むことではなくて、意欲・関心を喚起し、自分で学ぶ方法や態度を獲得させることでしょう (p 76資料 2-⑰)。これが高等学校に与えられた新しい使命だと考えています。

子どもたちの学習に必要な4つの柱

昨年2月に、中教審答申で、「知識基盤社会」という文言が示されています (p 76資料 2-⑱)。これはすでに1960年代の後半から1970年代にかけて、知識社会が来ると言われていましたから新しいことはありません。堺屋太一さんなども1980年代に本を書いています。これがインターネットの普及によって、急速に顕在化してしまいました。知識社会の特質を中教審答申では次のように説明しています (p 76資料 2-⑲)。知識に国境がないのだから、どんどんグローバル化が進みます。だから、ツールとしての英語を獲得しなさい。それから、技術はどんどん変わっていくのだから、それに対応しなさい。

い。価値観はどんどん変わるのだから、柔軟な思考ができるようになっていないと駄目だと。それから性別・年齢を問わず参画することができると書かれています。

冗談まじりに本校の生徒に言っているのは、早く私よりも高い給料を取りなさいと。高校生が高い給料をもらうことがありえる時代になったと。今までは大学に行って、そのあと企業に勤めてやっと高い給料がもらうというのは過去のこと。もうそういう時代ではないのだと。知識を持てば、大人を乗り越えることができる時代になったのだということを言い続けています。

私はたいへん衝撃を受けたので、このスライドをよく紹介しています（p 76資料 2-⑳）。ちょうど沖縄サミットがあったときの裏で、東京でG8の教育担当大臣が集まった会議が開かれ宣言文を出しています。その宣言文がこれです。先進国では今、こういう危機的な状況になっているのだと。伝統的な工業社会から顕在化しつつある知識社会への変容が起っています。そのときに、学習や教授のあり方を根本的に変えなければいけません。そのときに、これが衝撃的だったのですね。「高い技能レベルを身につけ維持できる者は社会的にも経済的にも大成功を収めることができるが」。だから、高い技能レベルを身につけなさいと。「そうでない者は安定した職業及び、その職業によって得べき社会的・文化的生活活動に必要な収入を得る見通しも立たない状態で、かつてない疎外の危機に直面している」と。

この文言を見たときに、今、目の前にいる子どもたちに、高い技能・スキルを身につけさせなかったら、将来どうになってしまうのかということを感じたのです。そして、その宣言文の中で、「知るための学習、するための学習、なるための学習、共に生きるための学習」、この4つの柱が必要な学習だと述べています（p 76資料 2-⑳）。今までは、知るための学習が中心になっていたのではないかと。だから、高等学校のなかに「総合的な学習の時間」など、いろいろなものが入ってきているのです。

機能しなくなっている一般入試

少子化の影響を考えてみましょう。オリンピックやサッカーを見ていると分かると思うのですが、今まではたくさんの生徒を競争させて、頂点を極めるという方法で育成してきました。この代表的な例が、今やっている甲子園

ですね。高校野球というのはたくさんの学校が参加して頂点を極めていく。それに対するのが、フィギュアスケートの荒川静香さんや日本の体操選手などが代表的な例にあげることができます。早いうちに個性を見抜いて伸ばしていく方法です。昔は競技人口を増やし、裾野を広げることで、頂点を高くするという方法をとってきましたが、これからは子どもの数が減る以上は、頂点を高めるためには、個性を見抜いて伸ばすという方法に変えなくてはならないだろうと思うのです（p 76資料2-②②）。

だから、早く子どもたちの個性を見抜いて、スキルアップを図っていく。それは大学に行ってからではなくて、もう高校時代からどんどんスキルアップをなさないと。そういうねらいで高校の改革というのは、多様化路線が進められているのですね。

先ほどの寺島先生が言われた進学指導重点校というのは一つですし、私が勤めている総合学科というのもその一つです（p 77資料2-②③）。いろいろなタイプの高等学校が出てきているわけです。学年制や単位制、全日制だったり、定時制も夜間や昼間があったり、それからチャレンジスクール、エンカレッジスクール、神奈川ではフレキシブルスクールと言っています。それから、スーパーサイエンスハイスクールであったり、スーパーイングリッシュハイスクールであったりというように、高等学校はどんどん多様化し、その個性に合ったかたちでの学習環境というものを整備しつつあるというのが現状なのです。そうなったときに、今までの方式での受験というシステムが機能しているのかということを考えてほしいのです。

知が非常に増えてしまい、変化していることを大学は十分お分かりだと思います（p 77資料2-②④）。そのときに大学の役割も変わってきていますし、高等学校の役割も変わってきているのです。授業の方法も変えなければいけません。それでは、獲得した知をどのように評価するのか。そのときに、高等学校の現場から言わせてもらえば、今の大学の入学試験は高校で獲得した知を正しく評価していないと考えています。大学は従来型の知の内容と量しか評価してくれていないのではないかと思われてなりません。

大学としては、当然、学習能力の高い生徒を獲得しようという希望があると思います（p 77資料2-②⑤）。昔は普通教育がほとんどでした。みんな同じものを学んでいたときには、学習能力を見るのだったら、普通科目でテスト

すれば、おおむね判断できたのです。だけれども、これだけ学習が多様化してしまったときに、はたして学習能力のある子たちが普通教育を受けている生徒しかないと考えるのは間違っています。学習能力の高い生徒をどのように獲得するかが、大学の入試制度改革の鍵になるだろうと思います。

私の計算では、一般入試はもう完全に機能なくなっています (p 77資料 2-②⑥)。だから、受験を目的に学びなさいという意欲の高め方は、もう無理があります。たいして勉強しなくても大学には入れるのです。受験に縛られていた教育から脱却したときに求められる教育が、お示ししたキャリア教育や、「総合的な学習の時間」だと思っています。これらの教育にどんどん期待が集まってくるだろうと予想しているわけです。

自分の能力を伸ばせる大学選びを

次に、受験が今までなぜ成立していたのかという話をさせてもらおうと思います。普通教育が花盛りになったきっかけは、1970年代のオイルショックです (p 77資料 2-②⑦)。それまでは工場にたくさん労働者が集まっていたわけです。それがFA化、OA化によって、労働者がいらなかったかで効率化が進められました。それまで工場で働いていた人たち、いわゆるブルーカラーと呼ばれる人たちをどこに収容するのかという、労働者の移行の問題が起こったわけです。そのときに、ブルーカラーの人たちをホワイトカラーのかたちに移行する方向で変化が起きました。

また、工場で人がいないわけですから、若者を同じように就職させたのでは、失業者がどんどん増えてしまうという問題も生じました。そこで、1970年代、1980年代、若者の収容所みたいな役割を大学が担うわけです。若者を収容する主な方法は、世界で学校か軍隊です。ここが収容先になるわけです。4年間の成長を待つ期間になっています。オイルショック以降、産業構造も大きく変わり、それまで製造業中心だった社会から、金融、証券、流通といった産業に変わっていきました (p 77資料 2-②⑧)。就職希望先とえば、銀行や商社を口にするのが当たり前の時代だったのです。そうすると、高度な知識・技能が必要となってきますから、大学の進学者を採るという方法が非常にうまくいったのです。

終身雇用、年功序列型の賃金があったときに、企業は、生産性を高めるた

めに、入社後新人教育を行いました (p 77資料 2-③⑩)。新人教育によって、伸びる学生はどういう学生かと考えれば、難関大学の入試を突破した学生は伸びる可能性があるだろうと考えたわけです。だから難関大学の卒業生を採りましょうと。このときに、大学で何を勉強したかなんて、問われなかったわけです。企業側も、「企業社会は大変だよ、今のうちに遊んでおきな」とまで言われた時代でした。

このシステムが現在、機能するのかと考えたとき、先ほどのイノベーションの話で示したように、社会がたいへん早いスピードで変化してしまっていますから、無理だと考えられます (p 78資料 2-③⑪)。自分が一つの仕事を長くしたいと思っても、転職せざるを得ないような社会に変わってしまっているわけですね。また、職業なり自分の技能を新しく転換しなければいけない時代になったわけです。企業はさらにコストを削減しようとするからです、賃金を払って勉強させる新人教育を省こうともするわけです。新人教育を施した後に、転職してしまわれたら企業側は損してしまうわけです。とすると、ますます新人教育を縮小することになります。そこで、企業は採用の際、初めから能力を持っている学生を採るようになってしまったのです。ここ数年間で企業の採用行動は、どこの大学の出身かではなくて、大学で何をしてきたのかということが問われるようになってきたわけです。そうすると、自分の能力をちゃんと伸ばせる大学選びというのが鍵だと考えています。

大学設置基準の大綱化によって、カリキュラムが大学ごとに異なるようになりました (p 78資料 2-③⑫)。学校教育法の改正によって、学部学科名も簡単に換えられるようになりました。現在、学科数で1,900種類以上あります。1,900種類のなかから、子どもたちはどのようにして学科を選ぶのか。大学側もどうしたら選ばれるのか非常に苦労しています。立教大学も非常に面白い学科を作っています。これまでほかの大学では学べないような教育環境も整備してくれています。子どもたちは教育環境や教育内容を調べながら大学選びをしています (p 78資料 2-③⑬)。中央教育審議会の答申でも、大学の役割は必ずしも学問研究だけではなく、多様な役割に応じたいろいろな大学が必要だと言っています (p 78資料 2-③⑭)。生徒はどのような大学に行きたいのかを考え大学選びをする必要があります。

偏差値50で MARCH は入れる

立教大学は、首都圏から多くの生徒を集めているという印象があります。一方で、地方の大学が急激に役割を変え、囲い込みをはじめようとしています(p 78資料 2 -③⑤)。地方分権が進められつつある中で、地方が生き延びるために、大学が拠点になって産業を興したり、企業をつくる時に大学がバックアップしたり、TLO で技術を移転したり。こういうことが、どんどん起こっています。地方は雇用が少ないので、都心部の大学に行かせ、卒業後は、都心部の企業に就職させるというのがこれまで一般的でした。それによって地方はどんどん疲弊するという現象が起こってしまったのです。地方では優秀な生徒の囲い込みが始まりました。受験人口のシミュレーションから考えてみたときに、今後どのようなことが起こるのかを考える必要があります。今年度の入試で69万人と言われています(p 78資料 2 -③⑥)。過年度生、いわゆる浪人生は極端に少なくなっており、現役生同志の選抜になってきています。

この間、朝日新聞社の「大学ランキング2007」でも書かせてもらったのですが、69万人の受験生の入試別入学者を考えてみると、こうなるわけです(p 79資料 2 -③⑨)。一昨年のデータで推薦入試 AO 入試によって入学した学生は22万人です。今年、どこの高校も、多くの大学からの指定校推薦が急増しています。AO 入試も拡大しています。この数は来年もっと多いはずです。短大への入学者は、幼児教育系、栄養系、看護系は短大の方が、学費が少なく就職もできる点でかなり有利です。すると、短大の入学者と推薦入試や AO 入試での入学者を合わせると32万人です。今年度の入試で考えたときには、この数はもっと多くなっているはずです。69万人から32万人を引きます。一般入試の受験人口は、40万人を切る可能性があります。次に入学定員を考えていきます。一番難関といわれているのが、国立の医学部。これが4,500人です。次のところで、医学部以外の帝国大系国立大学、1万8千人。そして他の国立大学、首都圏では、東工大、一橋大、御茶ノ水大、東京外大、これで3千人です。そして、やっと私立大学の難関大学と言われる学校が出てきます。4千、6千、1,500。それ以外に、私立大の医学部、獣医学部、3千人です。「MARCH」クラスが出てきます。そして、他の国公立大学。そうすると、こここのところをざっと足し算すれば、20万人ぐらいになってしまうのですね。ということは、40万人を切った一般入試で、実は MARCH クラスと

いうのは偏差値50ぐらいの力があれば簡単に入ってしまうことになります。私立大学の文系に関しては、入学定員の1.3倍に近い入学者数をとりたいたはずです。それを考えると、入学定員より多く入学できるのですから、偏差値だけの序列で入学者が決まるとすれば、少し勉強すれば簡単に大学に入れるわけですね。

一方、大学の方は、この序列のなかで生き残ろうとしたとき、下のほうの大学はつぶれるしかなくなってしまうわけです。そうすると、それらの大学は一所懸命、改革をして、自分の学校でしかできないような特色を持とうとするわけです。子どもたちは、自分の興味や伸ばしたいスキルを考え、自分の学力ではこちらの大学に入れるけれども、こちらのほうが面白そうだからということで入学先を決めるようになってきています。もうしばらくで、推薦入試とAO入試で入学する学生数が、一般入試で入学する学生数より多くなり、一般入試で入学する学生は5割を下回ってしまいます。この春の一般入試で入学した学生は51パーセントでした (p 79資料2-④)。

もう一つ、首都圏のマーケット (p 79資料2-④②)。4年制大学の高等教育のマーケットはどのくらいあるのかというと、毎年1万人ずつ減っており、22万人ぐらいしかいません。特に立教大学のマーケットは、この関東南部の4都県が非常に多いはず。この4都県の受験人口は、毎年1万人ずつ減っています。そのわずかなパイを、首都圏にあるたくさんの大学で奪い合っている状態で、どうやったら生き残れるかたいへん厳しい競争の中にあると思うのです。

AO入試の志願者はもうすでに2005年、一昨年のデータで6万人を超えています (p 79資料2-④③)。すると、全受験生が69万人でしたから、6万人ということは1割になっているわけです。世の中の変化のターニングポイントは、13パーセントから15パーセントといわれており、それを超えると、周知の事実になってしまうそうです。AO入試についても、これだけの数が活用するようになれば、今までマイナーな試験だったものがメジャーに変わることになります。AO入試の受験者は急速に増えることになると、このグラフから予想されます。今までAO入試を「あんな試験」と言う人が多くいました。今年あたりから、AO入試は受験生にはほぼ認知された試験になり、そのようなことを言っていられなくなるはず。そして、どんどん受ける

ようになる。すると、一般入試の受験の時期にどれだけ優秀な学生が残っているでしょうか。優秀な学生は残らなくなるのではないかと予想しています。

高い学費の対費用効果はあるのか

さらに、大学はとてもお金がかかります (p 79資料 2-④④)。どのくらいかかるのかと言えば、国立大学に自宅から通って、最低400万円ちょっとですね。だから、普通の大学だったら600万円ぐらいは当たり前です (p 79資料 2-④⑤)。学部によっては、もっと費用がかかります。この金額を見れば、大学進学というのはとても大きな買い物だとわかります。昔は大学に行けば高い所得を得ることができました。だけれども、今の時代、はたして大学に行って高い所得を得ることができるでしょうか。これは非常に厳しいです。このことを明らかにしていけないといけないと思います。これだけ大きな費用を支払って、はたしてどの程度効果があるか。対費用効果を考える必要があると思います (p 79資料 2-④⑥)。いろいろな家庭を見ていると、4年間600万円のお金を払える家庭は本当に少ないと思われます。このことは真剣に考えざるをえません。

経済的な問題によって起こっている現象の一つだと思われるのが、大学中退率の急激な上昇です (p 80資料 2-④⑦)。学校基本調査のデータからグラフを作ってみました。大学の在籍年数はだいたい4年間なので、大学の入学者とその4年後卒業者を経年でグラフにしてみました。入学者の割に卒業者数が減っているのがわかります。つまり、中退率が大幅に上がっているのです。入学時点では、含まれない編入学者も卒業者に加わることを考えてグラフを見ると、中退している学生がたいへん多いことがわかります。これがどうしてなのか。ミスマッチなのか、経済的な問題なのか、学生に対するケアが行き届いていないのか、様々な原因が考えられますが、経済的な理由も決して少なくないと推測しています。今後、大学進学を考える際、考えていかなければならないことがこの現象の中にあると思われます。

キャリア教育について、企業が大いに賛同した理由も考える必要があります (p 80資料 2-④⑧)。企業は、バブルのときに若者の囲い込みをやりました。その時、雇った社員が、役に立たない者が多く、不良債権だと言われているぐらいです。今、団塊の世代の引退が始まっていますから、若者が欲しくて

しようがないわけです。けれども、今回は、あのバブルのときのような二の舞を踏みたくない。企業は、はたらく意欲、学ぶ意欲を持っている若者が欲しいのです。だから、はたらく意欲、学ぶ意欲を喚起しようというキャリア教育に企業は大賛成なわけです。これまでの施策が学校現場だけで議論されていたのに対して今度は社会全体での議論になったわけです。

学ぶ能力・態度のある学生を育てたい

最後に、このような時代認識のもと、教育をおこなった結果、実際に本校の卒業生がどう活躍しているのかを紹介したいと思います。

ある卒業生は、慶應義塾大学に進学し、『ヌナブト』という約500ページの本を書いて塾長賞を取っています (p 80資料2 -⑤)。また、ある卒業生は大学院まで進学し、総務大臣賞を取るようなコンピュータのインターフェイスの研究をおこないました。テレビコマーシャルで有名な着信サイトの会社にコンテンツを提供する会社を、大学を中退して、19歳で起業、3年目にして年商10数億円の会社に仕立ててしまった卒業生もいます。だから、大学に行って学んで稼ぐのではなくて、好きなことはどんどん学んでビジネスにしまいなさいと。そして、行った先でとにかく意欲を持って活動しなさいと。新聞で取り上げられる卒業生もいます。また、デスクトップで見るインターネットの画面を携帯電話で見ることができるブラウザを開発した数名の会社に、本校の卒業生が3人入って活躍しています。この3人は、現在、大学に在籍している卒業生たちで、会社の中心で活躍しています。いろいろな大学や専門学校のパンフレットを見ると、本校の卒業生がたくさん出ています。大学に入学することを目標にするのではなく、学ぶ意欲を高めて、その後も、活躍してほしいと期待しているわけです。

本校の場合、カリキュラム的に言えば、英、数、国、理、社の授業数は普通科に比べれば少ない時間しか設置できません。普通教育の学力では、八王子東などには絶対に太刀打ちできません。でも、何を獲得しているかといったら、学ぶ意欲です。いろいろなかたちで活動できる子たちを育てていこうと考えています。このような時代の変化を考えたときに、本校でやろうとしていること、また大学でやっていただきたいことというのは、教わる能力や態度に長けている学生ではなくて、自ら学ぶ能力、態度を備えている学生を

育てていくことだと思います（p 80資料2-⑤2）。その能力の方がこれからの時代に合っているはずです。すると、入学の時点では、一般入試で計る普通教科の学力は高くはありません。本校の生徒は立教大学にあまり入っていません。これが現実です。入れなかったら、しかたないからほかの大学に行くしかないねとは言っています。

今回も『週刊朝日』の別冊の『一流校に入る』という本で、本校が一流校のなかに入って、東大、一橋、東北大の医学部に入学した生徒がいるものですから取り上げられたのかと思いますが、生徒に、「うちは一流校だってさ」と言うと、「ばかじゃない」と笑いながら応えてきます。「別に、東大に行きたいと思わないし、東大に行くよりも専門性を考えて、大学選びをしようからね、東大も超越しているから一流校なのかな」と生徒自身も言っているぐらいです。自分のスキルを伸ばせる環境で大学を選んでいく。それで子どもたちは十分満足しているわけです。だから、たぶん寺島先生の学校とは相反するような学校ですので、ちょうど今日のシンポジウムでは面白い展開になるかなと思っているところです。長くなってどうもすみませんでした。ご静聴ありがとうございました。

(発表 3) 坂詰貴司氏

互いに一方通行となっている高大連携

足立 千葉先生どうもありがとうございました。続けて3人目になりますけれども、芝中学校・高等学校の坂詰先生、よろしくお願いいたします。

坂詰 坂詰でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元にレジュメを用意しましたので、それに基づきまして、限られた時間ではありますが、これからお話をさせていただきます。

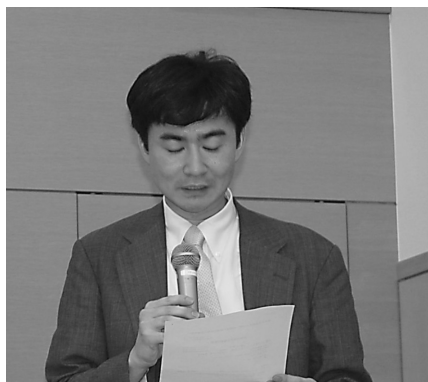
まず、今日は4人のパネラーということで、ほかの先生方は皆さん公立で、私は私立なもので、非常に肩身が狭い思いがしていますが、ちょっと視点を変えたお話ができればと思っています。

簡単ですが、私どもの学校の説明をさせていただきます。東京の港区にありまして、場所は東京タワーの近くにある学校です。もともとは浄土宗の学校でして、もちろん今でも浄土宗の関係はあるのですが、そういう学校で、ちょうど今年が、旧制芝中学校から数えまして100周年という区切りの年です。男子校で、現在、中高一貫教育を行っています。最初に中学のときに入試を行いまして、約300名採りまして、6年間。ですから、在籍数が1,800名ぐらいの学校です。これがだいたいの説明です。それでは、レジュメに沿ってお話しさせていただきます。

私は今日のなかで、高大連携について話をしてほしいということがあったものですから、最初のレジュメにも書いてありますように、今後の教育は連携が重要だということをお話しさせていただきたいと思います。

この連携というのは、今日は高大連携の話をしていただくのですが、大きく言って、小中の連携、あるいは中高の連携、あるいは高大の連携、それぞれがこれからキーポイントになっていくかと思います。これはたまたま私どもの学校は中高一貫ということで、中高の連携というのは同じ学校のなかでやっていますので、ある程度うまくいっているかと思います。あるいは、こちらの立教大学の場合には、小学校からありますので、それこそ小中高大という理想的な連携ができていないかと思っています。

ただ、現実問題としまして、一般には今日の都立高校のお話にもあったように、それぞれ高校単体、あるいは東京都の場合には、いくつか中高一貫校もできていますけれども、高校は単体ということで、中高一貫というのはま



坂詰貴司氏（私立芝中学校・高等学校教諭）

だまだ少数派です。

そのなかで高大連携ということなのですが、まずその参考資料の①をご覧ください。参考資料の①というのは2枚目の後ろ(p 83)です。これは1998年に中教審の答申で、初等中等教育と高等教育の接続の改善についてということで、ご存じの方も多々あるかと思いますが、このなかで、下のほうです、高大連携というのをしてほしいということで、これは

接続の改善ということで、(1)(2)(3)の文章が発表されています。このときから本格的に高大連携が始まっているかと思います。

では、現状ではどんな感じなのかということで、1の②番で現状のお話をさせていただきます(p 82)。これは実は、残念ながら現状では非常に高校と大学の高大連携というのは、表面的にはうまくいっている部分も多々あるかと思いますが、お話を聞いていますと一方通行という感が非常に多いと思います。これはどういうことかということ、高校側のほうは、総合的な学習等に、例えば大学の出前講義を使ったり、あるいはオープンキャンパスを見学に行ったりということで利用してしまして、どちらかというと担当は進路指導関係の教員です。一方で大学のほうは、ちょっと表現があまりよろしくないかもしれませんが、受験生集めの手段として、大学の先生方に聞いてみますと、「本当は面倒くさいのだけれども、仕方がないから出前講義に行かなければならない」とか、「オープンキャンパスがあったら説明しなくてはいけない」という話も聞きますし、どちらかというと事務職員の方に担当していただいて高大連携を行っているということを聞いています。

今後は高校と大学の教員間連携が必要

後ほどもお話いたしますが、高大連携は実は東京や首都圏ではあまり盛んではありません。東京でも多摩地区など一部盛んなところもあるのですが、

比較的東京以外のところで基本的にやっているところが多いと思います。

それが分かるのが、次の参考資料②、先ほどの参考資料①の次にした3枚目のものです (p 84)。実は高大連携に関する集まりというのは、ここ数年、いくつか行われています。私が調べまして、実際出席したものの3つをここに挙げました。上に書いてある最初のもので、筑波大学で9月に行われたもの。それから、次に書かれているのが京都で行われたもの。それから3番目は、神戸大学で行われたものです。

このなかで非常に盛んだったのが、2番目です。これは第3回高大連携教育フォーラムということで、京都は「大学コンソーシアム京都」という組織が大変しっかりしてしまっていて、大学が一丸となりまして、高大連携だけではなくて、先ほどお話のあったキャリア教育であるとか、あるいは単位互換であるとか、そういうことを積極的にやっている機関があります。そのなかにも京都高大連携研究協議会というきちんとした組織がありまして、その協議会を中心といたしまして、大学と高校の連携というよりは、大学が全部まわって高校と連携するということで、非常に盛んな連携を行っています。ですから、時間は12月9日金曜日の13時から17時ということで、たった4時間なのですが、実はこれはたくさんの分科会に分かれてしまっていて、最初に一般的なお話のあと、分科会に分かれて、その分科会も科目ごとの分科会。すなわち、国語の分科会、理科の分科会、数学の分科会ということで、いろいろな分科会に分かれて、科目ごとでどのように高大連携をしたらいいかということを議論しました。

その次の神戸大学で行われたもの。これも非常に盛んでして、これは3月21日、あえて祝日にやったということなのですが、これは大学の先生も高校の先生もぜひ来ていただきたいというような趣旨で3月に行われてしまっていて、私も参加したのですが、高校側、大学側、非常にたくさんの参加者があって、活発な議論をしました。詳しい内容は、そこにサイトのアドレスを書いておきました。そこに当日の議事録が全部出ていますので、ご参考になさっていただければいいと思います。

これら2つに対しまして、実は一番上に書いてある筑波大学で行われたものは、首都圏で大変珍しいということで、私も参加したのですが、内容的には非常に素晴らしいものだったのですが、なかなか周知徹底がなかったこと

もありまして、大学の先生は結構集まっていたのですが、残念ながら高校側の関係者が少ないということで、「高大接続と英語入試」という題でありながら、なかなか高校側の話を聞くことがなかったのではないかとということで、このへんが首都圏と関西との違いが出ているのかと思います。

話のほうが一に元に戻りまして、もう一度言いますが、先ほど申しましたように、現在の高大連携というのは、どちらかというと生徒が主体なのです。これは、出前講義をしていただいて生徒が行く、あるいは生徒がオープンキャンパスに行く、あるいは生徒が大学の講義を受けて単位をいただくというような、生徒主体です。ところが残念ながら、生徒主体は悪くないのですが、その前に、最後にも書いてあるのですが、なかなか高校と大学それぞれがそれぞれの状況を把握していません。把握していなくて、とにかく生徒が大学に行けば高大連携になるということで動いている部分が多いです。これはいろいろ聞いてみて、先ほど申しましたように、高大連携と言ってもなかなかうまくいっていない一つの原因ではないかと思っています。結局どうということかという、例えば今日のこういう機会を通じて、大学の関係者の方に高校の事情を分かっていたく。あるいは高校の教員のほうも、大学の先生方のお話を聞いて、大学の現状をよく知る。その上で、連携をしたほうがよいのではないかと考えています。

私立中学の受験体験が大学選びにも影響

では、レジュメの2 (p 82)に移りたいと思います。ここでは、先ほどから都立高校2校の現状でありますとか、生徒の様子などをお話ししていただきましたので、私のほうは中高一貫校、私立ということで、そのなかでいくつかお話しさせていただきたいと思います。最初に、最近の生徒の様子ということで書かせていただきました。先ほど八王子東高校さんのお話もあったように、私どもでも遅刻指導というのは大変厳しくやっています、以前は残念ながら結構遅刻者が多い時期もありました。やはり遅刻が多いとどうも成績にも比例するようなかたちがありまして、これはなんとかしなければいけないということで、数年ぐらい前から厳しくやるようになりました。最近は本当に遅刻が減りまして、われわれも1時間目の授業をするときに非常にやりやすくなりました。そうしますと、やはり生徒のほうも遅刻指導からいろ

いろいろなことがよくできるようになってきたみたいで、例えば学習意欲でありますとか、クラブ活動の態度であるとか、あとは学校内での生徒の態度といったものが、なんとなくですが、変わってきたような感じがします。当然のことなのですが、そういうことというのは、やはり勉強以前の問題で大事なのかなということを、改めて感じた次第です。

最近の生徒は、われわれは中学生から見ているので、小学校から入学してきた中学生を見ますと、高校3年生と中学1年生というのはおじさんと子どもみたいな差がありまして、私などは高校の授業に出ることが多いのですが、たまに中学校の授業に出ますと、中1などは小学生と間違えるぐらいの背格好でありますし、非常に考え方が幼いということは感じるのですが、ただ、それでもこの6年間でわれわれは教育して、なんとか大学に行って大学で活躍してもらおうと教育しています。そういった意味で意欲は結構昨今では低下しているという話も聞くのですが、比較的、中学生のうちは難しいかもしれないかもしれませんが、高校ぐらいになってきますと、意欲のある生徒というのは前と同じか、あるいは場合によっては、これは学年による差があるのですが、逆に増えている傾向がある場合もあります。ただ、これは私ども私立一貫校の話ですから、これが一概に全部の学校に値するとは思いませんが、そういう印象もあります。

それから2番目としまして、生徒が大学を選ぶときということでお話をさせていただきます。これはやはり難しいことがありまして、どういうことかといいますと、どうしても私どもは私立の中高一貫校ということで、まず彼らの頭に浮かぶのは私立大学らしいですね。そうすると、東京の私立大学ということで、もちろんこちらも含めまして、東京にある有名大学を選びます。これはわれわれが、例えば国立大学もあるよとか、東京を離れたらという話をしても、なかなかそのようには頭を変えてくれないようです。特に東京が大好きな生徒が多いものですから、国立、私立どこでもいいから、東京がいい。少なくとも首都圏がいい、少なくとも実家から通えればいいというかたちで、われわれはそれがすごくいけないことではないと思うのですが、もっと選択肢を広げれば、いろいろな可能性のある大学も行ってもらえるかと思うのですが、なかなかそういう頭がないようです。

ただし、それが変わる時期があります。高校3年生の3学期です。その時

期になり、いざ受験を目の前にしますと、センター試験などが行われて、自分の点数が分かった段階で、これはちょっと国立大学で首都圏は無理だなと思うと、ようやく地方にも目を向いてもらえます。その段階で行く子もいれば、やはりもう一年浪人をして、どうしても都心の学校に行きたいという生徒もいますが、なかなかそこまで、場所が場所だけに思わない生徒が多いようです。ですから、そのへんが東京の都心にある私立中高一貫校というのは、特殊な事情があるかもしれません。

それから、これは進学校と言われているところが多いと聞いていますが、全国的にはいわゆる理系離れということで、だんだん工学部受験者が減っておりますし、数学や理科の分野では危機は持っているのですが、私どもの学校では、いまだに理系のほうが非常に人気があります。先ほど言いましたように、1学年300名ほどおりまして、高校2年生、3年生で文理分けをしますと、今でも、300名のうち200名が理系、100名が文系というように、大変理系が多いです。理系が多い分だけ、どうしても東京で言うならば、やはり理系がある総合大学、あるいは理系だけの大学というところが、人気がありまして、もちろんこちらの立教大学さんも理学部がありますから、そういった意味では人気があるのですが、ほかに理系の、もっと工学部などがある大学のほうをどうしても選ぶような感じがあります。

そこで、先ほども申しましたように、高校3年生の3学期にいろいろなことが最終的に彼らの頭の中で固まるということがあるのですが、結構離れないのが中学入試のことなのですね。これは、先ほど申しましたように、われわれは一貫校ですから、彼らは中学入試を経て来ているのですが、やはり中学入試のときにいろいろな学校を選びます。たぶん立教さんの附属中学も選んだと思うのですが、そういうときの経験が6年間ずっと離れないのですね。そうすると、大学受験のときに、あの大学は中学受験で受かったけれども行かなかったから、今さら大学になって行けないとか、あるいは、あの大学はあの附属中学に受からなかったから、嫌だとか、非常に貧弱というか弱いとわれわれは聞いていて思うのですが、そういうのが結構ありまして、このような影響は高校入試がないだけに余計あるような気がしています。

ですから、繰り返して申しますが、比較的私立の6年制の学校というのは、私立大学の傾向が強いのではないかとということが分かります。

オープンキャンパスはイメージダウンの場合も

3 番目の、生徒が歓迎する大学の取り組みというのは、これはもういろいろな取り組みを、今、大学さんはなさっていますので、それぞれ生徒は情報に敏感ですし、ホームページ等見ておりますので、よく知ってしまっていて対応しています。オープンキャンパスも結構盛んになさってしまっていて、この夏休みなどですと生徒は必ずオープンキャンパスに行きますし、われわれもオープンキャンパスに行ってレポートを書かせたりしていますので、生徒は喜んで行くのですが、ただ、いろいろな生徒の話を聞きますと、オープンキャンパスに行ってイメージが悪くなるということもあるのですね。これはその生徒がどういうイメージで行ったのかというのをこちらも把握していませんから何とも言えませんが、やはりオープンキャンパスをおやりになる場合には、それなりのことをしていただかないと、ただよく見せようだけしていますと、結構今の生徒はある意味で賢いところがありまして、「あれは見せているからやっているのだな」というようなことを、9月になると結構言ってきます。そういうことがありますと、それまではいいイメージを持っていた大学が、オープンキャンパスに行くことによって、どうしようかなと思うことが結構あります。これは別に立教大学がどうのこうのというのではなくて、一般的に私立大学、あるいは国公立大学でもオープンキャンパスをやっていますが、その点をおやりになるときにはお気をつけになったほうがよろしいと思っています。

そのほかに、これはオープンキャンパスとまたちょっと話が違うのかもしれませんが、大学の取り組みで結構生徒に人気があって、それで大学に行きたいというのが、具体的に申し上げて東大の進学振り分けなのですね。いわゆる「進振り」というものです。国立大学の志望者はそれほど多くないのですが、その少ないなかで東大を志望する人間が最近増えてきてまして、実際にはそんなに入っていないのですが、その生徒たちになぜ行きたいのか聞いてみますと、結構東大の「進振り」が気に入ったと。これはご承知かどうか、今度少し制度も変わりますけれども、東大の場合には文Ⅰ、文Ⅱ、文Ⅲ、理Ⅰ、理Ⅱ、理Ⅲで入って、入って最初は駒場にいまして、それから本郷に行く。その本郷に行く過程で、改めて学科を選び直せる「進振り」という制度です。要は、入るときに事細かに決めなくていいから、それがいいというこ

とで、決定を先延ばしするという、私からするとどうかなとも思うのですが、やはり大学の何学部何学科で決めて、それを4年間ずっとやっていく自信がない生徒が多いものですから、そういった意味では、入ってからそういう変更がきく制度を前面に出しているというのは、結構魅力があるようです。もちろん他の大学でも、それぞれ入ってからいろいろ変わる、転部などもあるのですが、生徒にはなかなかそういうことまで情報が伝わってこない部分、われわれに話を聞いて、私などがそういうのがあるよと言っても、どうもなかなかそういう話が伝わってきません。それに比べて東大の「進振り」というのは昔から有名で、東大は別にそれを売りにしているわけではないと思うのですが、結構そういうものに魅力があるのかなと思っています。

立教の売りになるホテル人材育成

時間もだいふなくなってきましたが、あといくつかお話しさせていただきます。4番目、立教大学に望むことということで、これは何をお話ししたらいいか、私もちょっと迷ったのですが、あえてこれは生徒が望むというか、私の個人的な意見になるのかもしれませんが、立教大学さんは結構早い時期から観光学部をつくってしまして、今年も新しい学科を創出して力を入れているかと思っています。たぶん観光学部の卒業生というのは、名前からいうように、観光の産業でありますとか、そのなかにはホテルなどにも就職していると思います。これなどはなかなか日本の大学ではきちんとやっている大学はまだまだ少ないかと思っています。

ですから、こういう部分はこれからもっともっと充実していただきたいと思います。例えばご承知かと思いますが、アメリカのニューヨーク州にコーネル大学という有名な大学がありますが、あそこに以前行きましたときに驚きましたのは、たまたま私の教えた生徒が行っていたものですから、彼はエンジニアリングをやっている、それを見学しに行ったのですが、そこで大学のホテルに泊まったのです。大学のホテルですからたいしたことはないと思って泊まりましたところ、びっくりしたのは、非常にサービスがいき届いていて、洗練されていたことでした。コーネル大学というのはエンジニアリングで有名なのですが、実は世界でも冠たるホテル学科がありまして、これは世界中の有名なホテルのだいたいオーナーや支配人はほとんどそ

こを出ているという話を聞いたのです。これは私も全然知らなくて行って驚いたのですが、どうもコーネル大学のホテル科の生徒ですとか、あるいは先生が中心となってそのホテルを運営しているそうで、確かに多少荒削りのところもあるのですが、非常にそういう点では実地研修がなされて、素晴らしいホテルでした。

そのホテルの近くにホテル学科の授業の建物があつたのですが、そこには求人票が張ってあって、自由に見られたものですから、私も見たのですが、結構日本のホテルがそこに求人を出しているのですね。全部英語で書いてあるので、どうせアメリカのホテルだろうと思ったのですが、よく見ると北海道のホテルであるとか、大阪のホテルであるとか、いくつも日本のホテルがそこで求人を出していました。実際にそこを出た学生さんがどれだけ日本のホテルで働いているかどうか、私は調査していないので分からないのですが、日本でもこれから外資系のホテルがたくさん進出する予定もありますし、ホテル関係の人材というのはたぶん需要としては多いと思うのですが、なかなか日本ではそういう人材を育成する機関がまだまだ少ないのではないかと。昨年あたりは、北海道のウィンザーというホテルにはホテルマネジメントをする部署があるのですが、そこで研修を受ける勉強会を開いていましたが、そういうことを含めまして、別に立教大学さんにホテルをつくってくれとは申しませんけれども、たぶん今後の需要は結構あるかと思いますので、こういうのを一つの売りにしますと、今まで海外に流出していった人材が、少しは日本で勉強していくのではないかなという感じを受けています。

カリキュラム作成など教科レベルの連携を

時間もなくなってきましたので、「高大連携の将来への提言」ということで、あと数分お話しさせていただきます。

先ほど申しましたように、現在の高大連携というのは、もちろんうまくいっている例もありますが、結構生徒中心ということでなかなかうまくいっていない、かたちだけのものということが多く聞いています。ここで今日せっかくの機会ですので、私から提言させていただきたいのは、これからはぜひとも生徒中心から教員中心へ。この教員中心というのはどういうことかといいますと、高校側の立場で言えば、先ほど申しました進路指導関係の教員

から教科担当の教員。大学側としましては、事務職員から大学の先生方。この窓口を広げていただくことによって、うまくいくのではないか。これはそこに書きましたが、例えば前々から問題になっています。入試問題に関しましては、高校と大学では意見の相違がありまして、大学側のほうはこんなことも分からないのかというお話があったり、あるいは高校のほうでは、高校で全然勉強していない科目の内容であったりということで、これはもう長年のなかなかうまくいかない、歯車が合わないことがあるのですが、そういうものを目的とした連携をして、よりよい入試をつくっていったらよろしいのではないのでしょうか。

あとは、教授法の連携というのはどういうことかといいますと、最近各大学さんで大変教授法の勉強会や、あるいはFD、SDのセミナーが行われます。私も機会があるたびに参加するのですが、非常に先生方は熱心にお勉強なさっていて、われわれも感じることがあるのですが、結構大学の場合には、残念ながら高校までの教員と違いまして、いわゆる免許があるわけではありませので、そういう教授法のことを今までなかなか接する機会がなかったようです。ただ、高校の場合には、いいか悪いか別としまして、一応そういうことを大学のほうで学びまして、免許をいただいて授業をしているということで、結構高校の授業方法が大学の授業に参考になる部分があるかもしれません。これはあるかもしれませんというのは、すべてあるとは思わないのですが、そういった意味で連携をしても面白いのではないかと思います。

それから3番目は、教育実習を通じた連携なのですが、たまたま先日まで教育実習生が私のところに来ていたものですから、そんなことも浮かんできたのですが、結構教育実習生というのは、高校と大学をつなげる意味では重要な役割ではないかと思います。先ほどどなたかのお話のなかで、教育実習生が来て、自分の出身大学のこういうところがいいという宣伝してくれる場合もあれば、逆に宣伝でなくて、あの大学はあまりよくないよということも言うこともあると聞いています。教育実習というのは、当然ながら大学で教育実習の免許を高校側に委託をして、高校のほうで面倒を見て評価をするわけなのですが、現状ではなかなか意思疎通が成り立っていません。ですから、大学から書類が回ってきまして、いついつまでに書いてくださいということで、どういう観点で評価したらいいか、あるいは、具体的なことというのは

書類に書いてくれません。それは高校のほうでご自由に書いていただければいいということがあるかもしれませんが、昨今、先日の新聞に、これはまだ決まっていないことなのですが、教育実習を母校でやるのは禁止しようという動きがありますが、これは母校でやると甘くなるので、適切な評価が出ていないのではないかというお話がありますが、実際に現状を見ますと、どういう評価基準でどういう点数を付けてほしいということがまったく大学から来ていない段階で、高校側の評価というのはやはり非常に出しづらいですね。ですから、そういう現状を変えても甘くなるのであれば、これは母校でやるということはよくないかもしれませんが、やはりそういう連携が残念ながら今は気薄という段階で、それをすぐ変えるのはいかなものかと思います。ですから、それを通じた連携も大事なかなと思います。

受験科目しか勉強しがない生徒たち

最後ですが、連続的なカリキュラム作成のための連携というのは、よく言われていることですが、やはり私は数学の分野ですから数学の話をさせていただきますと、例えばいまだに文系の生徒でも、大学の先生方は微積の難しいものやっているとって授業をなさっている方が多いと思います。ところがご承知のとおり、大学入試では、経済学部、商学部でありながら、数学を外す場合も多々出ています。ということは、生徒の方は受験科目にないわけですから、別に勉強しなくてもいいのだなと錯覚に陥るのですね。われわれは一所懸命、経済学部が微積などは絶対に使うから、絶対に簡単なものでもいいから頭に入れておかないと、大学になったら困るよと話をしても、「先生、受験科目でないからいいのではないですか」とあっさり言われてしまいまして、それで入学します。入学してから飛んできまして、「先生、数Ⅲの教科書は余っていませんか」と。どうしたのかと言ったら、「大学では先生が、数Ⅲのことは知っているものと思って授業をしている。これではまったく授業についていけないから、なんとかならないか」ということがいまだにたまに聞かれます。これはずっと前から言われていると思うのですが、こういうことは生徒にとって非常に不幸なことでありまして、あるいは大学側にとっても、大学さんによりましては補習授業を行ったり、あるいはそういう支援室をつくって、高校の教員のOBの方を雇って、懇切丁寧に授業を

なさっている大学もあるかと聞いていますが、それが大学としていいのであれば構わないのですが、やはりそういうことをやらずに済むために、高校と大学の教員が、先ほど言った教科レベルで連携して、お互いに、ではここまで勉強したら次はここにしましょうということがあれば、先ほど申しました入試問題や、あるいはカリキュラムの作成、いろいろなものに連携があっとうまくいくのではないかと考えています。完全に私の個人的な提言ですので、これを現実問題としていいのかどうか分かりませんが、ちょっとまとめてみました。

最後に一つだけ書いたのですが、今日はたぶん教育関係の方が多いのですが、私が日ごろから思っているのは、なかなかこの変化に富んだ時代で学校のことを考えるときには、教育関係のわれわれだけでは無理だと思います。これからやはりいろいろな方々、学校に関係ない方々。今いろいろな機会がありまして、学校の先生方もそういう分野からお知恵を拝借すること多いと思うのですが、まだまだ少ないと思います。いろいろな方々からお知恵を拝借することによりまして、よりよい接続、よりよい教育ができるものと思っていますので、こういう機会をまた立教大学さん、ほかの大学さんでもつくりたいと思って、大勢の方々に考えていただいて、お知恵を拝借できればありがたいのではないかと思います。

簡単ではありましたが、発表を終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

(発表4) 鷺尾雄慈氏

簡単なことからできるようにさせる

足立 ありがとうございます。それではここで一旦休憩に入らせていただきます。

(休憩後) 最後に新潟県立三条高等学校の鷺尾教頭先生にご発表いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

鷺尾 こんにちは。三条高校の鷺尾と申します。今日は7月13日ですが、実は2年前の今日、水害で校舎が完全に水没しまして、100人ぐらい校舎に取り残された学校です。学校のアウトラインですけれども、国公立大学に4割が進学し、その半分がだいたい新潟大学です。全部で4分の3ぐらいが現役で大学に進学する新潟県の県央と呼ばれる地域の伝統的な進学校です。

今日は三条高校でやっていること、三条高校の実践がどうこうということをお話するのではありません。私は先ほどご紹介いただいたように、「特色ある大学教育支援プログラム」の審査員を2年間やっています。高校から選出されている委員はごく少なく、高校の進路指導の立場から審査をするということで加えられていますので、今日はその立場から話をしろということで、参ったわけです。

先ほど晴海総合の千葉先生のお話がありましたが、私も教員のスタートは都立高校からで、進路が多様な普通高校でした。新潟に戻りまして、ご存じかどうか分かりませんが、新潟県の新設高校の起爆剤である国際情報高校の創立期に勤務しました。1期生から東大に3人入れましたので、進学校型のキャリア教育をどのように行うのかという視点でお話したいと思います。

レジュメとパワーポイントの資料がお手元にあると思いますので、それを見ていただければと思います。

まずは新課程の生徒なのですからけれども、学力低下だ何だと言われますが、私は生徒の能力が落ちているのではなくて、中学校の指導内容が落ちているのだと思います(p86資料4-①)。中学生はどのように勉強しているかというと、あの薄い教科書をとにかくひたすら覚えることをやっています。特に理科と社会はその傾向が強いように思われます。私は、専門が化学なのですが、生徒は1年生の1学期の中間試験では、教科書に出てくる反応式を全部覚えようとするのです。中学校では20個ぐらいしか出てこないから、覚えて

終わりなのです。ところが、高校では覚えきれません。どういうルールに従って反応が起きるのかという、根本的なところをしっかりと分かって、帰納的に理解していかないと問題は解けません。中学校は絶対評価ですので、とにかくこのレベルまで、覚えてしまえばそれでもよしということなのです。卒業してからもアフターフォローで、三条高校の1年生のためにといって、中学校のときの塾が定期考査の対策プリントを出してサービスしています。簡単に入手できる予習情報です。しかし、実際の大学入試というのは自分で対応していかなければいけないので、塾の魔の手を断ち切れなくてはならないのです。

それから、後でパワーポイントで示しますが、「場合分け」の概念へのとまどいがあるのです。中学校と高校の決定的な違いは、「場合分け」ができるかどうかです。とにかくその対策は、内容をどれだけ精選して学習時間を確保させて自分でやるしかないと自覚させて、できることを増やすことで自信をつけさせていくことが必要です。これが今の高校生に対するオーソドックスな指導方法だと思っています。だから、私は、先生方には、「今の子どもと昔の子どもは違うのだから、教える内容を減らせ!」と言っています。教える内容を減らして、その減らした内容をきちんと分かるようにすることが大切だと思っています。ですから、化学では生徒全員が反応式なんて書けなくていいとも言ってます。理系に進む生徒は反応式を書けなければいけないけれど、文系に進む生徒は反応式を書けなくてもいいということです。反応式を書けなくても、何が何に変化する、どういう理屈で変化するというのが分かれば、センター試験の問題は解けます。とにかく簡単なことをできるようにするというのが、新課程の生徒に対する指導のポイントだと考えています。

今年の公立高校では全国的に注目された2校があります。金沢泉丘高校と富山中部高校です。特に、金沢泉丘高校は、全国の高校をいろいろ研究されていて、やれることを増やす指導を徹底的に実施されたのです。そうしたら、現浪合わせて東大20人合格という結果がついてきたのです。新課程のツボをきちんと押さえられて、要するに、昔の高校生はできたというノスタルジーではなくて、今の高校生はこういう高校生だからこのようにするのだということをしきりとされたのだと思います。

地方の公立高校は先週末から週末に進研模試をやります。これは全統模試の問題なのですが、これは典型的な高校1年生の数学ができるかできないかの分かれ目になる問題です (p 86資料 4 -②)。k の値によって場合分けをして、最大最小を求める問題です。この場合分けの概念は中学校では出てきません。例えば確率も、裏と表が出る確率を求めるとか、2枚同時に投げたときに出る確率を求めろというのを中学校でやりますけれども、1回戻してとかいう「場合分け」は、高校に入ってからなのです。



鷺尾雄慈氏 (新潟県立三条高等学校教頭)

県ごとの状況をつかんだPRが必要

これもよく言われているところですけれども、英語は長文読解、国語は古文と漢文が本格化しますから、高校受験のときの貯金では食っていけないところをできるようにさせるかどうか大切です (p 86資料 4 -③)。そのためには3時間ぐらいの家庭学習が必要です (p 86資料 4 -④)。3時間の根拠というのは、複数科目を毎日勉強できる時間かどうかです。それから、生徒にも、親にも大学や大学入試に関連する情報を自分の言葉で伝えます (p 86資料 4 -⑥)。東大はなぜ難しいのかとか、二次試験の教科数がどうなっているのかとかということを理屈でわかってもらいます。

私が、生徒にまず話をしているのは、志望校選ぶときにどのように条件を絞っていくのかということです。新潟大学にある化学系学科を列挙しました (p 87資料 4 -⑪)。実は「化」という文字が入る学科は3つしかないのです。しかし、ここに示したのは全部化学系が学べる学科です。大学院に行くと、これらの学科は、大学院自然科学研究科に吸収されてしまいます。当然ですけれども、どういう研究をするかというのは、その担当の先生のところについて決まるわけですから、学びの中身というのが何なのかを見抜く力が必要

です。3の(2)あたり(p85)に書いてありますけれども、高校の進路指導の本質というのは、将来の自分を考えさせることから逆算させて、今の自分がどうなのかという自己理解をさせ、将来の目的が何なのかをはっきりさせることが必要です。そして、その手段として何をしなければいけないのかを考えさせた上で、実行させることになります。

高校生の大学選定基準の初期値は成育歴で決まります。これは河合塾が今年出された新潟県出身者の受験者数の大学ランキングです(p87資料4-⑫)。新潟県人が大学をどれだけ知っているかということが読みとれます。東大はもう雲の上だと思っているので、ベスト20に入りません。私立については、新潟県人は日大が大好きだということがわかります。東洋大学が多いのは、井上円了が新潟県の出身者だということもあるのですね。それから、早慶では、早稲田のほうが好きです。立教大は全然このランキングに出てきません。新潟の人に、立教大学というのはどういう大学かということはイメージしづらいようです。池袋とはどういうところがイメージできず、西口からちょっと歩くとこんなツタの絡まるキャンパスがあるということを知る人がどれだけいるでしょう。ですから、大学の広報の問題だと思うのですけれども、その県の状況をつかんでPRしていただきたいのです。

成育歴に付加されるのが、成績・偏差値です。さらに、プラスアルファは進路指導教員の力量によって付加される部分です。子どもにも親にも一番わかりやすいのは、偏差値や難易度という物差しです。今は大学改革とか、大学院の充実というのが国の施策として行われています。しかし、特色GPやCOEと言っても、なかなかその中身の部分までは分からないですよ(p87資料4-⑬)。高校現場では新聞に掲載されると話題になりますが、そのときああいうのがあったなというレベルの話で、実際にそれが何なのかというのはやはり浸透していないというのが事実です(p87資料4-⑭)。私はたまたま特色GPの委員をさせていただいている経験があるので、どういうことをやっているのか、きちんと話ができますけれども、高校関係者で審査員をしているのは2、3人です。また、特色GPやCOEの選定理由なんていうのを一般の人に、わかるように話をしろと言われても、私にもできません。最先端の学問の中身は、そこの大学の先生が話をしなければ伝えることができないと思います。これが「高校から見た大学教育」の現状です。大学の広

報においては、自分の大学の特色というのがどういうところで評価されたのかということ伝えることが必要なのではないのでしょうか。

偏差値そのものだって、結局、どういうものか生徒も保護者も知りません (p 87 資料 4 -⑩)。中学時代は、クラスの何番目ぐらいにいと A 高校に入れそうだという言い方をしますけれども、大学入試では、8 万番目にいと国立大学に行けそうとかでは話がわかりにくいので、偏差値が使われるのです。

病巣をどのように判断し説明するか

これは今年のセンター試験の英語の問題です (p 88 資料 4 -⑪)。最後のこの 15 点の問題にたどり着けるかどうかで、トータル何点取れるか決まってくるのだということを話しています。センター試験で得点するためにはスピードの訓練が必要です。そのスピードに慣れていくことも、先ほどから千葉先生が言われている能力の一つです。じっくり考えてやっていくというのも一つの資質ですが、瞬時に判断をし、決められた時間のなかで次々と課題を解決していくというのが、社会に求められている資質の一つです。化学の場合、今年のセンター試験の 1・2 ページは、鉛筆を使って解いてはいけない問題だと指導しています (p 88 資料 4 -⑫)。要するに、第一問は、目で追って答えられるようなスピードがないと、センター試験の化学の問題は最後まで解答できないのです。

これはベネッセの「Compass」の画面ですが、実際に進路指導をするときに、こういったシステムを使います (p 88 資料 4 -⑬)。センター試験の自己採点後に、どこに出願するかは面談では、このようなシステムを参考にします。この例で言うと、新潟大学の B 判定からビハインド 26 点なので、そのまま新潟大学に出願するか、長岡技術科学大学に変更するかという判断をします。実際に、この生徒はビハインドを跳ね返すリスクが大きいので、長岡技術科学大学に出願し、合格しました。経験の少ない教員が面談すると、ただ単に「ああ、D だね。志願変更しよう」とかということになります。医者画像診断技術と同じで、見る画像は同じですが、病巣をどのように判断して、相手にどのように説明して、か、インフォームドするかというのが進路指導教員の能力の差になってきます。また、地方では、地元の国立大学

と東京の私立大学の難易度の関係について、きちとんした物差しを持っている人はあまりいません。地元の国立大学は、MARCH と同等の難易度、あるいは上だと思っている方のほうが多いです。これを見せると多くの生徒たちは「ええっ」と驚きます (p 88資料 4-②③)。これは去年のデータですが、日大の工学部のセンター利用が、なぜ新潟大学の工学部の滑り止めになるか。日大の工学部が郡山にあるということが分からないと、この図式が解けないですね。日大の理工は御茶ノ水、生産工が習志野、工が郡山だということをしっかり認識してもらう必要があります。

それから、私大の受験で重要なことですが、同一日程の入試がこれだけあって、この中で一つしか受けられないということも重要です (p 88資料 4-④)。立教大学が、今年、全学部日程入試をやられて大ヒットしたので、来春から明治と法政と専修が追従して、2 匹目のドジョウを狙ってますよね。これも、また、ごちゃごちゃになって、2 年ぐらい経つと多くの大学が全学部日程方式をやるようになってと思います。ただ、これに関しても指導のテクニックがあります。センター利用があり、一般入試も全学部日程と個別学部日程があるというシステムをよく分かっているならば、本当に行きたい大学であれば、「有効に利用しなさい」という指導することができるのです。

評定平均値が高い＝まじめに努力した

お金をどうするかという話は非常に重要なので、親には必ず話します。専門学校と大学の学費の差は、単年度ではほとんどないことや奨学金の話です。奨学金は、「きぼう21」を借りなさいと話します (p 89資料 4-⑤)。それから、これはリクルートの資料ですが、相談相手は母親だから、母親が進路についての基礎知識がないと相談相手になれないわけです (p 89資料 4-⑥)。だから、母親をどうやって巻き込むかは重要です。私は、生徒への指導と保護者への指導を分けています。

非常に限られた時間のなかで話をするので雑ぱくになりますけれども、先ほどの千葉先生の話にもあったように、進学実績のない大学からも、毎日のように指定校推薦の通知がきています。もし、大学が指定校を考えるのなら、一般推薦で継続的に入学している高校なら様子もわかっていますから、そういう高校だけを指定校とするのが一案だと思います (p 89資料 4-⑦)。それ

から、評定平均値ですが、当然、高校間格差がありますし、高校によって成績内規の差もあります。例えば、80点で5だという高校もあれば、85点でないと5にならないという高校もあります。ですから、評定平均値が高いということとどう評価するかということですが、学力があるかどうかというより、まじめに努力した生徒であると感じていただきたいのです。いろいろな高校がありますが、進学者の少ない高校でオール5に近い成績の生徒は、その学校できちんと学んでいる生徒だということですし、進学校でオール2に近いような生徒は、普段何もしていない生徒であるというような見方ができるのだと思います。

地方では、とにかくセンター利用をしろという指導をします (p 89 資料 4 -㉔)。対費用的にも、一般入試1校分でセンター利用5校分くらいになります。新潟から出てくると、新幹線でだいたい2万円、1泊1万円、一般入試の受験料が3万5千円。もうそれだけで、諸経費でざっと8万円くらいかかるわけです。8万円あったら、センター利用を5校分くらい出願できますよね。

バレンタインまでに1校ゲットさせる

私大の受験で大事なものは、バレンタインまでに1校ゲットできるかどうかです。だから、全学部日程入試や地方試験入試というのは入試日が早いので非常に有効なのです。例えば、最終的に東大に受かせたいという生徒については、早慶のセンター利用のどちらかをゲットさせると、それだけで安心感が1カ月半もちますから、本命のラストスパートにつながります。

最後になりますが、ある入試制度がヒットすると、皆がそれに追従します (p 90 資料 4 -㉕)。そうすると、バッチィングが起きたり、翌年には回避したりして、志願者数が大きく変わります。入試制度については、もっとどっしり構えることも一つの方法かなと思います。それから、ほとんどの保護者と地方の多くの教員は、大学に対する個別の知識はないものだと思われたほうがいいです。全部が全部とは言いませんけれども、やはり新潟県の高校教員の多くは新潟大学の出身者ですから、自分が在籍したところの新潟大学のことは知っていますけれども、都内の私立大学になると、どこにどういう大学があって、どういう歴史なのかまで語れる人は少ないです。私は数少ない語

れる人間の一人なので、こうやって指導できるのですが、知らないで偏差値情報だけで指導することになります。実は新潟大震災の後に、本を整理していましたら、ポバイに連載されていた『田中康夫の大学受験講座』などという本が出てきて、ビックリしました。田中康夫さんも昔はこんなのを書いていたのだなあときれいなく読み返しました。偏差値が低くても、お得な大学などというのがたくさん出ています。実は私の教え子もフジ系列のアナをやっていますけれども、「アナになるには白百合！」などと書いてあります。

最後に入試問題ですけれども、とにかくシンプルな問題をお願いしたいのです。シンプルな問題の代表がセンター試験で、もう一つが東大の入試問題です。『ドラゴン桜』が流行りましたが、あのドラマは東大理一に絞って指導したから成立したのです。シンプルでフレームが決まっています、どこをどう攻めればいいのかという対策が非常に立てやすいのが東大の入試です。ただ、ドラマですから、あんなに簡単に東大に入れるわけではないですが、何も知らない生徒に、「こういうフレームになっているから、おれの言うとおりについてこい！」と言ってやらせきことは重要です。このことは私も共感する部分があり、自分の方針とも合致していました。入試制度も入試問題も、拡大路線できましたけれども、シンプルに戻すということも一つの考え方ではないかなと御提言を申し上げます。時間を守ると言いながら4分超過しましたが、あとはお配りした資料を見ていただければと思います。御静聴ありがとうございました。

第二部 ディスカッション

自己の成長の場をどこに求めるのか（鷺尾）

足立 鷺尾先生、ありがとうございます。それでは、先生方、そのまま壇上のほうにお上がりください。では、続けて始めさせていただきます。いろいろと先生方に本当に熱のこもったお話をしていただきました。それぞれのテーマで一つのシンポジウムをやってもいいぐらいだったと思っています。ここで皆さま方からの質問を受け付けたいと思っています。どなたかいらっしゃいますでしょうか。何でも結構です。

質問1 僕は東京大学の学生です。おうかがいしたいのは、結局のところ、なぜ高校生が大学に行かなければいけないのかと高校生に聞かれたときに、どうやって答えるのかなということです。僕自身が高校生だったときに、結局聞いたところでたいした答えが返ってこないの、今の先生はどういうことを考えて、大学に行く人に対して進路指導をするか、どう答えるのか聞きたいのですけれども。

足立 大学に行く理由ということですね。進学指導の根源的な問題でもあるわけですが、どなたかお答えいただける先生はいらっしゃいますか。

鷺尾 今、私は教頭なので、この時期、中学生の説明会に頻繁にでかけますが、中学生に「国民の義務を3つ言ってみなさい」と問いかけます。勤労の義務が出てきますから、国民は働く義務があるが、働くということには二つ意味がある。一つは生活のために金を稼ぐことであり、もう一つは社会貢献することで、社会貢献をすることが重要なのだということを話しています。社会貢献をするときに、高度な技術や知識や資格がないとできない仕事に就くときに、大学進学が必要になるのだと説明します。中学生に一番わかりやすいのは先生です。基本的に大学で進んで、教職の単位を取らなければ免許は取れません。だから、先生を目指すのであれば、いわゆる進学校から大学を目指すのが一番近道になると話します。しかし、美容師志望ならば、違う考え方もあるよとも言います。美容師は大学に行かなくてもなれるかもしれないけれども、例えばハリウッドで活躍したいのであれば、当然、英語をしゃべれないといけないのだから、単に専門学校に行くということを考えないほうがいい場合もあるというように話します。



足立 千葉先生は鷺尾先生のお話に傾かれて聞いていらっしゃいましたが、いかがでしょうか。

千葉 同じだと思います。大学はアカデミックなことをやりに行く世界ですから、必ずしもみんなが大学に行く必要はありません。自分自身が成長する場としてどこがふさわしいのかを考えた

ときに、逆に、大学に行かないほうがいいこともあるし、大学でしかないこともあるはず。高校生のうちは、試行錯誤しながら、進む方向を変えていく時期です。進む方向を考える機会をたくさん与えて、結果として大学に行く生徒もいるだろうし、大学に行かないで全然違うことをする生徒もいるでしょう。本校の卒業生だとディズニーランドでダンスを踊っている子もいますし、海外に行ってしまうという子もいます。自分探しをしていくいろいろな方向に進む卒業生が出てきます。だから、必ずしも大学に行かなければいけないというわけではありません。自己の成長の場をどこに求めるのかを考えさせたいと思っています。うまく答えになっていないです。すみません。

足立 ありがとうございます。ほかにご質問のある方はいらっしゃいますか。

社会で活躍させたいというスピリッツが大切（千葉）

質問2 私は民間企業に勤めています。本日は貴重な話をありがとうございました。

千葉先生のお話のなかで、早く個性を見つけるということが言われて、いろいろ専門性に富んだ高校が増えているというお話だったと思います。そこで、今の教員は、開放制の下、戦前の師範学校からでないとなれなかった時代とは180度逆の方向になっているのですけれども、いろいろな専門性が開

われるような高校が増えてくれば、教員採用の面でもいままでとは違う人材が求められてくるように思うのですが、どうでしょうか。

千葉 教員という職業も、はたして今までの制度ですつといけるのかと考えると、私はわからないと思っています。公務員は、外国において、税収がなくなると一番先に切られてしまう

職業で、不安定職業の一つだと言われているそうです。公教育に携わる人間はいつまでも安泰というわけにはいかないと思います。教員は、免許をもっていないと教壇に立つことはできないことになっていますが、今、知のあり方を考えると、外部の人材を教育現場に活用せざるを得ません。だから、この制度のままいくのかはわからないと私は思っています。そこで、教育に携わる人に求めたいものは何かと考えたときに、子どもたちの成長にかかわりたい、子どもたちが社会で活躍できるようにしてあげたいという思いが一番大事で、スピリッツの部分が根本だと思います。資格取得に走ったときの一番の罣は、取得という目先のことに心を奪われて、スピリッツが育たないことだと思います。

例えば、保育士になりたいという生徒は、保育士になるためにどこに進学すればいいか、試験科目は何か、ということを書いてきます。そのときに子どもたちに話すのは、「あなたはこれから子どもの成長にかかわるだから、あなたが勉強しなかったら、かかわった子は不幸になるでしょう。常に人のために学ぶのだという意識を持ちながら自己成長していけないと、何かになるためという学習をしていくと小さな人間になってしまうよ」という話をしています。今の制度を考えれば、とりあえず教職の免許を取らないと現場に入れないのですから、教職の免許の取る過程での工夫も必要だと思います。

今、団塊の世代の引退で、教員の採用数が増えています。団塊の世代の引退で教員数が足りなくなるのは、昔から、人口シミュレーションでわかって





いたはずで。わかっていたにもかかわらず、国立大学の教員養成系を縮小してしまいました。これには、何か意図があったのではないかと勘ぐってしまいます。いろいろな想像を巡らせると、様々な人材を教育現場に入れようというもくろみがあったのではないかと思ってしまうのですが。あくまで私の想像ですけれど。これからどのようなことが起こるか

はわからないと思っています。時代にあった方法が取り入れられるかもしれませんね。

理科離れは小学校の理系教員不足も（坂詰）

質問3 私立立教大学理学部の教員です。

今回来ていただいた各先生にうかがいたいのですが、理科離れ、あるいは理系離れということ言われて久しいかと思うのですが、問題の本質は一体何なのかということを知りたい。

それと、坂詰先生はおっしゃっていただきましたが、理系と文系がどれぐらいの比率で、現在の高校3年生が所属しているのか。その割合を教えてください。また、理科離れに対して皆さま方の各高校でそれにどれぐらい対策をしているか。もし対策をされているのであれば、その内容について具体的にご説明していただければと思います。よろしくお願いします。

足立 理系離れの問題の本質、それから文系理系の比率はどうか、そしてどんな対策を取っているかということだと思いますが、では寺島先生から。

寺島 本校は基本的に文系、理系を分けない高校です。ですから、3年生になると同じクラスの中にいわゆる理系志望、要するに、理系の履修科目を多く取る子と文系の履修科目を多く取る子が混在している状態です。8クラスありますが、どのクラスもだいたい文系と理系が半々ずつのような構成になっています。

履修状況なのですが、うちの場合は1年生で理科総合と生物・化学

を履修させます。それから2年生で物理を全員履修させています。

3年になると、物理、化学、生物、3科目のなかから理系の子は2科目選択し、個別試験レベルにまで対応するレベルの高いところ。また、センター試験用の、物理、化学、生物という選択講座も用意しています。理科の教員が言うところによると、1、2年はあまり受験ということを意識せずに、とにかく実験を多くさせているということです。実験をしてレポートを書くという作業を繰り返します。あと、うちの特徴では、自然科学研究会というのがありまして、熱気球をつくって飛ばせたりしています。

具体的に理科離れがどうして起きたかという、理科、数学やっぱり授業がつまらないから。教え方の問題がかなりあるのとは考えています。数学でも例えば、私は数学の教員だけれども、やれ問題を解けと。理屈が分からずに問題を解け、こうすればいい、公式を覚えて数字をぶち込めばいいというような数学の教え方をすればいいになるだろうと思います。なぜそれをしてなければならないかということを理解させなければならないと思います。例えば、数学ならなぜそういう式変形をしなければいけないのかと。この問題を見たときに、きみはどう感じるのか、みたいなところから授業にしていかないと、なかなか厳しいのかなと思います。

もうひとつ、これはあくまでも私の想像なのだけれども、センター試験を導入して、センター試験という一本の評価軸をやっていくことによって、例えば地方の国公立を含めて、センターで失敗したら法学部は無理だから教育学部へ行きなさいであるとか、あるいは教育学部の入試科目のなかから数学や理科を最低1科目でいいようにしてしまったというようなところも、原因ではないかと思います。ただ、これは高校現場でどうにもならないことです。先ほど言ったのですけれども、制度的なことをいろいろ批判してもしょうがないので、各高校でいかに生徒に面白いと思わせるようなところで授業を展開する必要があると思います。うちで言うの実験中心のところで工夫してやっています。だから、物理や化学や生物の実験室は常にいっぱいになるような工夫をやっているようです。お答えになったかどうかわかりませんが、そんなところですよ。

千葉 実は、私は化学なのです。今日はパネリストの先生は皆、理系なのですね。最近教科を教えていないので、教科担当を言うことが少なくなって

しました。実は、6年ぐらい前に理科のプロジェクトを考えるとということで、自民党に呼ばれてヒアリングを受けたことがあります。そのときに述べたことは、ネガティブキャンペーンはやめた方がいいと言いました。「理科離れ」という言葉はよくないと。のちに、「理科大好きプロジェクト」と「大好き」に変えてくれたのは、そのときヒアリングで言ったことが認められたからかもしれません。では、理科離れが起こっている原因は、算数、数学に問題があるのではないかと推測しています。すべての教科科目の中で数学だけが小学校からの積み重ね科目なのです。それ以外はやり直しがきくのです。

例えば小学校で理科嫌いな子、中学校で嫌いな子を、高校で化学を好きにすることはできます。だけれども、算数・数学で途中つまづいた子は、やり直しがたいへん難しい。私が考える提言は、小学校の算数を早く専科にすることです。小学校でちゃんと算数を面白く教えらるる教員を配属しないと、日本の理工系は絶対にダメになります。そして、高校では、理科好きを育てるために実験をいっぱいやればいいのです。そして、小学校ではもう少し自然の中で遊ばせてほしい。「総合的な学習の時間」などで、野山に行って自然体験をさせることをやってくれるといいなと勝手に思っています。

坂詰 私の学校では、先ほど比率を言いましたが、理系が多い一つの理由は、やはり実験が多いことではないかと思います。私どもの学校には、実は実験室が6つあります。生物が2つ、化学が2つ、地学が1つ、物理が1つということで、中学1年から高校3年生まで、高2で文系、理系に分かれますから、文系の高2、高3の子は実験が少なくなりますけれども、だいたい6年間実験漬けぐらいな感じがあります。ですから、そういった意味では、それが一つの要因ではないかと思っています。

ただ、理系離れの本質というのは、今、先生がお話しになったことと似ているのですが、小学校の先生で理系の方がすごく減っていることと関係があると思います。これはいろいろなところで聞くのですが、小学校の先生に理系が少ないということは、どうしても理科や算数をやる時間も減ってきますし、苦手ですから、なるべく教えたくないような感じになってくる。あるいは教科書が棒読みになる。そうすると、どう考えても小学校のうちに算数や理科が、すごく嫌いではなくても、ちょっと敬遠するような感じが出てくる

と思います。それは実は、中学入試をやっているわれわれからしても顕著に出ていまして、同じような問題を出しても、学力低下という話もあるのかもしれませんが、できなくなっているのですね。そのへんがどうも一つあると思います。

あともう一つ、私が考えますのは、やはり社会的な環境変化

なのですが、高度経済成長のときには、一所懸命汗水流して働いて、いわゆる技術者でばりばりやっていくというのが一つのシンボリックなところもあったのですが、ここバブルの時代から含めまして、どちらかというところ懸命働かなくてもお金を右から左に動かせばなんとか儲かるのではないかというような感じの風潮が、どうしても子どもたちにも影響していて、ちょっと経済の株のことがわかっていればなんとかやるのではないかという安易な考えを持ちがちなのが、理系離れの結構大きな理由の1つなのかなと思います。先ほど言ったように、私どもの学校では理系が多いのですが、多い理系の生徒たちも、実は本当の理系とは限らないのです。どちらかというところ理系に行っておけば文系にもなれる、つぶしがきくという感じで理系に行っている生徒も多いのです。ですから、本質の理系はどれだけいるか分らないのですが、実際に大学入試のときにコロッと文転して経済学部に入ってしまう生徒も結構います。ですから、そういった意味では、実験をそれだけやってもなかなか理系離れを止めることは、比較的うちは少ないですが、結構厳しいかなというのが実感です。

鷲尾 私は化学が専門ですけども、自分自身が理系科目は得意ではないので、生徒には、「難しいことはわからなくていいよ」と言います。理科や数学をなぜ勉強するかというと、ロジックの訓練のためですよ。ですから、先ほど言いましたが、基本的なことはわからなければいけないけれども、面倒くさくなったら難しいことはわからなくていいという割り切りも必要であるということです。それからもう一つは、先ほどから話が出ていますが、セ



ンター試験でアラカルトが増えた時代があって、そのころに受験した人たちが小中学校の先生になった時代があって、小中学校には理科の教育的スキルが高くない先生もいます。だから、面白さとかいうところまでは、なかなか生徒に伝えられない。楽しい実験を紹介する米村でんじろう先生は元都立高校の先生です。あの方は難しいことを言わないでしょう。みんながそれをわかろうとか、理屈をわからなければいけないという必要はありません。興味を持って、勉強の芽が出てきた生徒をきちんと育ててやるのが大切だと思います。

大学の評判を左右する先輩の影響力（寺島）

足立 よろしいですか。では、あとお一方ぐらい。

質問4 立教大学経済学部1年の学生です。自分も新潟県の長岡出身で今年上京してきたので、鷲尾先生の話はとても、立教大学は地元になじみがないなというのは、正直なところありました。

今回の「変化する高校生と大学への期待」ということで、趣旨がちょっと違ってしまいかもしれませんが、質問を一つだけ、各先生にさせていただきたいと思います。大学への期待となっていますが、今の若者に対する、大学生への期待ということに関しまして、各先生にひと言ずつ、時間も押しているようなのでひと言ずついただければと思います。

足立 若者への期待と。ずいぶん簡単なようで難しいですけども。質問をもうひとつまとめて。先ほどこちらのほうで手を挙げられた方。

質問5 職業はコンサルタントをやっておりまして、大学の経営や教育改革に興味があり研究をしている者です。先ほどの千葉先生のお話のなかで、これから受験生が減ってくると生徒を確保できずというところもあったのですが、生徒を確保できず経営の失敗をして倒産してしまうような大学も今後出てくるかと思います。結果的にそのような大学に進学させてしまうようなことをしないためには、高校ではどのような指導をしているのか。また、1回入試が終わってしまうと、その生徒は4年間そこに所属することになるので、吟味して進学をさせたり進路を決定させたりするとは思いますが、高校ではどのような調査をしたり、また主観を持って指導をされたりしているのかを、千葉先生を中心にいろいろ教えていただければと思います。

足立 今後経営が困難になりそうな大学に対して、高校ではどのような見方をして指導をしているのかということですね。では「若者(大学生)の期待」について寺島先生からお願いしてもよろしいですか。

寺島 難しい。だけれどもエールを送るといえるのか、若者に期待したいことというのは、人間うまくいくときはみんないいのだろうけれども、やばいとき、危機的な状況になったときにそれをどう乗り越えていくかというのが、大事ではないかなと思っています。ただ、立教大学にも期待するというのは、ではどう乗り越えるかというときに、先ほどから出ている専門性もあるけれども、教養的なところ、総合的な力を大学の4年間でつけてほしい。勉強はもちろん大事。でも、全国から集まってきた仲間と、新潟からは少ないかもしれないけれど、立教大学というのは全国から集まる大学だと思う。そういう仲間と切磋琢磨していろいろな総合的な学力を身につけていってほしいと思う。要するに何かあったときに自分でできるだけ、やばい状況であるとか危機的な状況を脱するような力を養ってほしい。先ほど資格うんぬんと言ったけれども、そういうものがあれば資格を取りたくなったら、そのときに資格を取りに行けばいいのではないかと私は思っています。

それから、大学をどのように調査しているかということなのだけれども、うちの場合だと、生徒の希望で出ているのが、国公立は全国へ散るのですけれども、私立大学で言うと MARCH クラスぐらいと、あとは家政学部を持っているとか、農学部を持っている大学ぐらいで取まってしまっているの、あまり倒産するかどうかの調査能力というのは、たぶんゼロに等しいのではないかと思います。

あとは、大学の評判というのは、これは先ほども話をしたけれども、やはり先輩の影響力はものすごく大きいと思います。合格体験記などで、この大学に行ってよかったというのは、私たち教員が言うよりも、先輩、特に部活動の先輩であるとか、体育祭の応援団と一緒にやった先輩のひと言なんていうのはかなり影響力が大きくて、そんなところで本音の状況を得ているのではないかなと思っています。また何かあったら聞いてください。

千葉 大学生への期待という点では、こんなに変化していて面白い時代なのだから、面白がってもっと改革してほしいという思いがあります。私も若者とは言えなくなったので、こんな言い方になってしまいましたが、社会をこ

れから担うのは、若い人たちです。皆さんにはいい社会をつくってほしいな、志を持って頑張ってもらいたいという願いが、大学生への私のエールです。

それで、つぶれそうな大学をどのように判断しているかということ、まず一つは、数年前に、私立大学の入学者が「選択」という雑誌で暴露された志願者数や入学者数などのデータをまず元に判断します。公表していない大学は、公表できない状況だと解釈して、行かせないようにしています。それから、私学助成金ですね。助成金を受けていない大学は、受けられない理由があるはずですから、まず疑って調べてみます。それから、大学基準協会の会員校か会員校でないかということも判断材料にしています。大学基準協会は経営的に問題があれば会員校になれないはずですから。そして、相互評価をきちんと受け、適格と判断されているかも重要です。7年間に一度受ければいいことになっているようで、7年間、財務を保証できるかと言えば、7年間は長いと大学基準協会も言っていますが、相互評価を受け、適格と審査されていれば少しは安心です。JUA マークがパンフレットなどに、付いているか、付いていないかを探すように生徒には指導しています。それから、格付けなどを受けているところはまず大丈夫だろうと判断しています。また、新聞などで、不正問題など報道されたところは避けさせます。補助金などがカットされるはずですから、行った先で寄付、寄付と言われたり、充実した教育が提供できなかったりする可能性が心配されます。また、同じ学校法人の系列で問題を起こしていないかも、判断の材料です。これらについてできる限り情報収集し、チェックを入れるようにしています。

坂詰 最初の大学生に期待することなのですが、今まで2人の先生がおっしゃったことにプラスして、私はよく大学生、特に卒業生に勧めているのは、大学の時代は4年間長いようで短いのですが、社会人になるとなかなか時間をとることができないと思います。ですから、見聞を広めてほしいということを目指しています。これは今、いわゆるバーチャルの時代で、家でウェブサイトを見れば世界中の様子が分かりますし、あたかも自分で体験したかのような錯覚に陥ることがあって、判断を見誤ることが多いと思うのです。ところが、自分で現地に行って、例えばアメリカならアメリカはこういう国なのだと。あるいは日本国内でもそうですね。北海道なら北海道はどういうところだと。そういう実体験に基づく判断をしないと、今後結構そういうこと

で選択を見誤ることが多いと思います。また、海外に行くことによって、実は日本の良さもわかるし、日本の悪いところもわかる。日本にいと、実はわからない部分が多いと思います。ですからそういった意味では、私は卒業生に言っていることは、ともかくどんな方法でもいいから海外に出て、海外から見た日本、あるいは海外から見た海外、そういうことを見るということが大切なので、自分の目で見てほしい。実体験をして判断してほしい。そういう人間に大学4年間で成長してほしいということを期待しています。

それから、大学の調査ですが、これも今お二人の先生がおっしゃったので、それにプラスしますと、私の場合には、実際に全国各地を歩いて大学を見に行っています。見に行きますと、やはり大学は対応によってそれぞれだいぶ差がありますし、先ほどの発表でも言いましたように、いろいろなセミナーに参加していますと、結構内部のことがわかってしまうのですね。非常に期待していた大学が、だいぶまずいというのが分かったところもあれば、逆に大丈夫かなと思っていた大学がしっかりしているということが、結構先生方は外部の人間がいるにもかかわらず、忌憚ないご意見を話していただけるので、そういうところから結構分かることが多いものですから、先ほどの大学生向けと同じなのですが、私自身もできるだけ全国を飛び回って足を運んで、自分の目で見てそれを生徒に伝えていこうかと思っています。

足を運んで「臭い」を嗅ぎわかる（鷺尾）

鷺尾 大学生への期待ですね。私はもともと化学の教師ですけれども、今は化学の教師というよりは進路指導の世界で生きています。だから、基本になるルーティンワーク以外に、プラスアルファのスキルを身に付けることを目指してください。

それから、大学をどう評価するかということですが、「臭い」です。食べ物が腐っているかどうか、臭いを嗅ぎ分けるのが一番でしょう。分析すると、先生が言われた、大学基準協会に入っているかどうかとか、認証評価を受けているかどうか、入試で倍率があるかどうか、そういったことになりますけれども、これらのことがトータルで、「臭い」になって臭ってきます。結局、臭いを嗅ぎ分けるためには、いろいろな大学に足を運んで、実際に見てくる必要があります。私は、今はできませんけれども若いときは新設大学

には、足を運んで実際に見に行きました。そうすると、この大学はこのよう
な立地条件なんだろうというのがわかってきます。臭いを嗅ぎ分けるまでに
なるのは簡単ではありませんが、実際に足を運んで経験積むことが大切だと
思います。

足立 ありがとうございます。本当に会場の皆さんはもっともっと聞き
たいことが山ほどありなのに、司会の不手際で消化不良のかたちになって
しまい申し訳ありません。これにてシンポジウムを終わらせていただきたい
と思います。

どうぞ出席いただいた高校の先生方に盛大な拍手をひとつお願いいたしま
す。それでは小川先生、よろしくお願いします。

小川 本日のバネリストの先生方からは、今をとらえた、型にはまらない
素晴らしいお話をうかがいました。また外部から多くのお問い合わせとご参
加をいただきまして、いろいろな角度からパスやシュートが飛んでくる、エ
キサイティングな試合のようなシンポジウムになったと感じております。お
時間ないところ恐縮ですが、お手元のコメントカードにぜひご記入のうえ、
お帰り際に出口で担当者にお渡しください。お忘れ物がないようにお気をつ
けください。それでは、本日はどうもありがとうございました。

立教大学シンポジウムに寄せて

～八王子東高校の進路指導について～

進路指導主任 寺島 求

【1】平成18年度[2006年度]大学合格者数

国公立大学	2006年				2005	2004
	28期	過年度	合計	備考		
東京大	8	2	10		9	8
東京工業大	13	9	22		15	14
一橋大	5	1	6		8	11
京都大	3	1	4		2	3
横浜国立大	7	3	10		6	8
東京学芸大	6	3	9		13	11
東京外語大	5	1	6		3	4
東北大	4	2	6	薬27期	7	3
東京海洋大	3	1	4		1	1
茨城大	3		3			1
東京農工大	2	3	5		12	11
電気通信大	2		2		7	5
信州大	2		2		1	1
金沢大	2		2		2	
山口大	2		2	医28期		
東京医科歯科大	1	1	2	医26期	1	2
大阪大	1	1	2		2	1
北海道大	1		1		8	4
山形大	1		1			2
宮城教育大	1		1			
お茶の水女子大	1		1			
名古屋大	1		1		2	1
神戸大	1		1			
富山大		3	3	医(2)26期, 薬27期		
筑波大		2	2	医27期	3	5
弘前大		1	1	医27期		
秋田大		1	1	医27期		1
東京芸術大		1	1		2	
島根大		1	1	医27期		
大分大		1	1	医26期		
琉球大		1	1	医26期	1	

国公立大学	2006年				2005年	2004年
	28期	過年度	合計	備考		
千葉大					7	7
埼玉大					4	3
群馬大						3
山梨大					2	1
新潟大						1
岐阜大						1
岡山大					1	
広島大					1	
九州大					1	
宮崎大					1	
岩手大					1	
宇都宮大					2	
国立大合計	75	39	114		125	113
首都大学東京	20	4	24		34	10
都留文科大	2	1	3		2	1
横浜市立大	1	1	2	医27期	3	2
神奈川県立保健福祉大	1		1		1	1
国際教養大		1	1		1	
群馬県立女子大	1		1			
山梨県立大		1	1			
秋田県立大					1	
大阪府立大						2
埼玉県立大						1
福島県立医大						1
名古屋市立大						2
京都府立大					2	
和歌山県立医大						1
岐阜薬科大					1	
高崎経済大					2	1
公立大合計	25	8	33		47	22
国立看護大学校	3		3			
防衛医科大学校						1
国公立大合計	103	47	150		172	136
(内・国公立医学部計)			11		9	12

私立大学	2006年度			2005	2004
	28期	過年度	合計		
早稲田大	46	44	90	72	75
慶応大	24	20	44	34	34
上智大	4	12	16	23	16
3大学計	74	76	150	129	125
中央大	38	43	81	51	51
明治大	25	43	68	57	43
立教大	19	29	48	27	23
法政大	10	10	20	37	40
青山学院大	21	16	37	34	28
東京理科大	29	40	69	56	45
6大学計	142	181	323	262	230
津田塾大	8	3	11	9	4
東京女子大	6	4	10	11	11
日本大	6	8	14	17	20
東洋大	1	4	5	2	2
駒沢大	5	4	9	8	13
専修大	3	0	3	5	7
6大学計	29	23	52	52	57
日本女子大	11	10	21	7	18
明治学院大	8	8	16	18	8
東京薬科大	5	11	16	19	15
東京農業大	5	5	10	9	9
成城大	5	5	10	3	2

私立大学	2006年度			2005	2004
	28期	過年度	合計		
杏林大	4	4	8	5	9
国士舘大	4	2	6		
玉川大	4	0	4	4	3
成蹊大	3	9	12	7	4
北里大	3	7	10	14	16
武蔵工業大	3	4	7	3	8
共立女子大	3	1	4	1	4
昭和女子大	3	0	3		4
実践女子大	3	0	3	3	3
芝浦工大	2	4	6	4	8
帝京大	2	1	3	4	3
国際基督教大	2	0	2	4	1
國學院大	2	0	2	2	1
工学院大	2	0	2	3	3
東海大	1	2	3	2	5
慈恵医大	1	2	3		1
多摩美術大	1	1	2	1	1
明星大	1	0	1		1
武蔵野美術大	1	0	1	1	3
日赤看護大	1	0	1	2	
東京電機大	1	0	1	2	
東京造形大	1	0	1	1	1
東京経済大	1	0	1	1	3
東京家政大	1	0	1	1	2
拓殖大	1	0	1	1	1
創価大	1	0	1	11	5
昭和薬科大	1	0	1	5	5
その他(私大)		15		21	34
私立大学計	332	371	703	644	636

【2】指定校推薦入試結果

	指 定 校		評定	可否
1	首都大学東京	都市教養学部 人文・社会系	4. 5	○
2	首都大学東京	都市教養学部 法学系	4. 5	○
3	首都大学東京	都市教養学部 経営学系	4. 1	○
4	首都大学東京	都市教養学部 法学系	4. 3	○
5	首都大学東京	都市教養学部 電気電子工学	4. 3	○
6	慶應大学	法学部 法律学科	4. 6	○
7	慶應大学	商学部	4. 3	○
8	中央大学	法学部 法律B	4. 2	○
9	立教大学	現代心理学部 心理学科	4. 5	○
10	早稲田大学	商学部	4. 4	○
11	早稲田大学	第一文学部	4. 4	○

3年4月の志望状況		
一橋大	社会学部	社会学科
一橋大	法	法律
首都大東京	都市教養	都市／経営学
首都大東京	健康福祉	理学療法
東京工業大	第5類	
一橋大	法	法律
千葉大	教育	養護教諭
上智大	総合人間	心理
中央大	文	教育／心理学
一橋大	経済	経済
東京外大	外国語	英語

辞退した主要大学指定校推薦枠

青山学院大学(5名), 学習院大学(4名), 北里大学(2名), 慶応大学・理工学部(2名)・商学(1名), 昭和薬科大学, 中央大学・法・文・総政, 津田塾大学, 東京女子大学(2名), 東京理科大学(2名), 東京薬科大学(4名), 日本女子大学(2名), 法政大学(3名), 明治大学, 明治薬科大学, 立教大学, 早稲田大学・法

(参考)東京都教育委員会ホームページ『進学指導重点高の取り組み』より

大学名	八王子東			日比谷			戸山			西			国立			立川		
	28期	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計	現役	浪人	計
東京大	8	2	10	9	3	12	3	3	6	9	10	19	5	4	9	0	0	0
東京工業大	13	9	22	10	3	13	4	5	9	10	6	16	8	5	13	2	3	5
一橋大	5	1	6	5	2	7	0	1	1	3	5	8	7	4	11	2	0	2
京都大	3	1	4	1	1	2	1	0	1	3	2	5	1	4	5	0	2	2
国公医学科	1	10	11	3	4	7	2	7	9	3	5	8	4	3	7	1	2	3
4大+医医計	30	23	53	28	13	41	10	16	26	28	28	56	25	20	45	5	7	12
国公立合計	100	47	147	89	35	124	67	58	125	81	46	127	102	57	159	71	42	113
早稲田	46	44	90	81	44	125	65	42	107	73	57	130	72	68	140	24	28	52
慶応	24	20	44	63	24	87	18	16	34	38	36	74	28	24	52	10	3	13
上智	4	12	16	29	11	40	15	14	29	20	14	34	19	10	29	8	8	16
東京理科大	32	41	73	27	19	46	29	43	72	37	27	64	24	34	58	14	15	29
4大計	106	117	223	200	98	298	127	115	242	168	134	302	143	136	279	56	54	110
立教大	19	29	48	42	14	56	22	19	41	18	20	38	29	22	51	24	15	39
青山学院大	21	16	37	18	6	24	14	6	20	13	5	18	20	11	31	12	13	25
中央大	38	43	81	29	5	34	18	16	34	24	42	66	47	43	90	40	20	60
明治大	25	43	68	53	35	88	31	44	75	27	35	62	33	52	85	32	28	60
法政大	10	10	20	17	11	28	17	25	42	4	12	16	20	24	44	29	19	48
MARCH計	113	141	254	159	71	230	102	110	212	86	114	200	149	152	301	137	95	232

【3】主要私立大学入試結果(大学から送付して頂いたデータ)

立教大学	一般入試				センター試験利用入試				合計			
	現役		浪人		現役		浪人		現役		浪人	
	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願
文学部	4	16	3	11	4	10	2	9	8	26	5	20
経済学部		6	2	2			2	2	0	6	4	4
理学部	1	5	3	3		2		3	1	7	3	6
社会学部	2	6	1	2		4		3	2	10	1	5
法学部		5	6	14	1	2	4	8	1	7	10	22
観光学部	1	3	1	1	1	1		1	2	4	1	2
コミュニティ福祉学部	1	1	1	2				1	1	1	1	3
経営学部		5	1	3	3	3	3	6	3	8	4	9
現代心理学部		3		3		1		2	0	4	0	5
計	9	50	18	41	9	23	11	35	18	73	29	76

早稲田大学	一般入試				センター試験利用入試				合計			
	現役		浪人		現役		浪人		現役		浪人	
	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願
政経学部	1	16		10					1	16	0	10
法学部	1	19		15	1	6	3	3	2	25	3	18
第一文学部	3	23	3	15	2	8	1	3	5	31	4	18
第二文学部	1	4	1	7					1	4	1	7
教育学部	6	20	4	13					6	20	4	13
商学部	1	25	1	14		3	5	7	1	28	6	21
理工学部	18	51	17	41					18	51	17	41
社会学部	2	15	2	16					2	15	2	16
人間科学部	2	11	1	10		2	1	3	2	13	2	13
スポーツ科学部	1	4	1	2		1	1	2	1	5	2	4
国際教養学部	2	5	2	4	3	4	1	1	5	9	3	5
計	38	193	32	147	6	24	12	19	44	217	44	166

慶応大学	現役		浪人		全体	
	合格	志願	合格	志願	合格	志願
文学部	3	9	2	7	5	16
経済学部	2	15	3	10	5	25
法学部	1	13	0	18	1	31
商学部	5	20	3	9	8	29
理工学部	12	30	14	33	26	63
看護医療学部	1	5	0	2	1	7
計	24	92	22	79	46	171

中央大学	一般入試				センター試験利用入試				合計			
	現役		浪人		現役		浪人		現役		浪人	
	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願
法学部	5	21	5	22	5	22	10	30	10	43	15	52
経済学部	3	7	1	5	7	9	5	8	10	16	6	13
商学部	2	10	1	4	2	4	4	7	4	14	5	11
理工学部	1	5	0	1	1	6	2	4	2	11	2	5
文学部	8	16	7	10	2	11	5	9	10	27	12	19
総合政策学部	0	3	1	3	1	2	2	8	1	5	3	11
計	19	62	15	45	18	54	28	66	37	116	43	111

【4】進学状況

(1) 国公立大学進学者: 93名

入学を辞退した国公立大学			進学先		
1 東京学芸大	L類	学習社会文化	早稲田大	1文	総合人文
2 東京外国語大	東アジア	中国語	早稲田大	国際教養	
3 横浜国立大	経済	経済システム	早稲田大	スポーツ科学	スポーツ文化
4 横浜国立大	経営	経営	早稲田大	国際教養	
5 茨城大	文	コミュニケーション	成蹊大	文	現代社会
6 首都大東京	保健福祉	看護	慈恵医大	医	看護
7 横浜市立大	看護		慶応大	看護	看護
8 都留文科大	文	国文	青山学院大	文	日本文学
9 都留文科大	文	比較文化	東京女子大	文理	哲学
10 国立看護大学校	看護		首都大東京	保健福祉	看護

(2) 私立大学進学者: 89名

	進学者	学部別人数
早稲田大学	13	一文:2, 二文:1, 教育:3, 商:1, 社学:1, 人間科学:1, スポーツ科学:1, 国際教養:3
慶応大学	9	経:1, 法:1, 商:3, 理工:3, 看護:1
立教大学	8	文:3, 社会:2, 観光:1, コミュニティ福祉:1, 現代心理:1
中央大学	7	法:3, 経:1, 商:1, 理工:1, 文:1
青山学院大学	4	文:2, 法:1, 経営:1,
明治大学	4	法:1, 政経:1, 理工:1, 農:1
東京理科大学	3	理:1, 理工:2
日本女子大学	3	家政:1, 理:1, 人間社会:1
上智大学	2	文:2
法政大学	2	人間環境:1, 現代福祉:1
成蹊大学	2	文:1, 理工:1
東京農業大学	2	応用生物:2
日本大学	2	商:1, 芸術:1
実践女子大学	2	生活科学:1, 人間科学:1

【5】部活動と進学先

部活動	進学先	部活動	進学先	部活動	進学先	部活動	進学先
運動部 東京大		運動部 金沢大		運動部 茨城大		運動部 昭和女子大	
運動部 東京大		運動部 早稲田大		運動部 大阪大		運動部 国士舘大	
運動部 東京大		運動部 早稲田大		運動部 神戸大		運動部 東北大	
無所属 東京外国語大		運動部 東京大		文化部 慶応大		運動部 慶応大	
運動部 東京大		運動部 早稲田大		運動部 首都大東京		運動部 東京学芸大	
運動部 東京大		運動部 早稲田大		無所属 青山学院大		運動部 東京医療保健大	
運動部 東京大		運動部 首都大東京		無所属 中央大		運動部 東京学芸大	
運動部 東京工業大		運動部 東京農業大		運動部 東京学芸大		運動部 東京農業大	
運動部 一橋大		運動部 中央大		運動部 東京工業大		運動部 成蹊大	
文化部 東京医科歯科大		運動部 東北大		文化部 東京工業大		文化部 首都大東京	
無所属 一橋大		文化部 東京外国語大		運動部 東京工業大		文化部 日本女子大	
運動部 東京工業大		文化部 津田塾大		運動部 東京農工大		文化部 東京女子大	
運動部 首都大東京		文化部 早稲田大		運動部 立教大		文化部 東京海洋大	
運動部 慶応大		無所属 首都大東京		運動部 横浜国立大		文化部 一橋大	
運動部 早稲田大		無所属 慶応大		運動部 東京外国語大		文化部 東京経済大	
文化部 首都大東京		無所属 首都大東京		運動部 山口大		文化部 上智大	
無所属 東京工業大		運動部 電気通信大		運動部 一橋大		無所属 国立看護大学校	
無所属 東京工業大		運動部 中央大		運動部 横浜国立大		無所属 共立女子大	
運動部 北海道大		運動部 立教大		運動部 北里大		運動部 女子栄養大学	
運動部 京都大		運動部 立教大		運動部 慈恵医大		運動部 国立看護大学校	
運動部 京都大		運動部 多摩美術大		運動部 山形大		運動部 駒沢大	
運動部 中央大		運動部 首都大東京		運動部 立教大		運動部 上智大	
運動部 東京工業大		運動部 東京学芸大		運動部 慶応大		運動部 茨城大	
運動部 早稲田大		運動部 電気通信大		運動部 明治大		運動部 東京家政大	
文化部 首都大東京		運動部 東京電機大		文化部 成蹊大		文化部 実践女子大	
文化部 立教大		運動部 宮城教育大		文化部 武蔵野美術大		文化部 日本大	
文化部 東京学芸大		運動部 東京工業大		文化部 日本女子大		文化部 東京海洋大	
文化部 東京工業大		運動部 早稲田大		文化部 立教大		文化部 日本大	
文化部 京都大		文化部 一橋大		無所属 名古屋大		文化部 早稲田大	
文化部 東京工業大		文化部 信州大		無所属 慶応大		文化部 首都大東京	
無所属 山口大		文化部 青山学院大		無所属 東京薬科大		文化部 早稲田大	
運動部 横浜国立大		無所属 お茶の水女子大		無所属 日本女子大		文化部 帝京大	
運動部 早稲田大		無所属 早稲田大		運動部 青山学院大		無所属 群馬県立女子	
運動部 慶応大		無所属 首都大東京		運動部 早稲田大		無所属 中央大	
運動部 明治大		無所属 慶応大		運動部 東京理科大		無所属 専修大	
運動部 東京大		運動部 横浜国立大		運動部 金沢大		運動部 東京理科大	
運動部 慶応大		運動部 首都大東京		運動部 信州大		運動部 大妻女子大短期大	
運動部 横浜国立大		運動部 明治大		運動部 明治大		運動部 外国留学	
文化部 首都大東京		運動部 東北大		運動部 順天堂大		運動部 拓殖大	
文化部 首都大東京		運動部 中央大		運動部 法政大		文化部 帝京大	
		運動部 東京理科大		運動部 中央大		文化部 実践女子大	
		運動部 東北大		文化部 首都大東京		無所属 武蔵野	
		文化部 首都大東京		文化部 青山学院大			
		文化部 法政大		文化部 神奈川保健福祉			
		文化部 首都大東京		無所属 東京工業大			
		文化部 首都大東京		無所属 首都大東京			
		文化部 首都大東京		無所属 東京外国語大			
		無所属 東京農工大		無所属 東京海洋大			
				無所属 立教大			
				無所属 日本社会事業大			

【6】進路概況

	就職	専修学校	短期大学	大学 (大学校を含む)	予備校等	その他	合計
男	0	0	0	73	83	0	156
女	0	0	1	109	50	0	160
計	0	0	1	182	133	0	316
	0.0%	0.0%	0.3%	57.6%	42.1%	0.0%	100%

現役進学率57. 9% (男子46. 8%, 女子68. 8%)

【7】進学状況

		国公立			私立			合計	総計	割合
		男	女	小計	男	女	小計			
人文科学	文学	0	5	5	1	13	14	19	35	19.2%
	史学地理	0	0	0	0	1	1	1		
	哲学・他	3	5	8	1	6	7	15		
社会科学	法・政治	7	4	11	2	5	7	18	43	23.6%
	商・経済	5	3	8	7	4	11	19		
	社会学・他	0	1	1	1	4	5	6		
理学		12	3	15	2	3	5	20	20	11.0%
工学	機械	5	1	6	0	0	0	6	29	15.9%
	電気・通信	3	2	5	2	0	2	7		
	応用化学・他	9	3	12	1	3	4	16		
農学		3	4	7	1	2	3	10	10	5.5%
医・薬		1	0	1	0	3	3	4	4	2.2%
保健		0	5	5	1	5	6	11	11	6.0%
家政		0	0	0	0	6	6	6	6	3.3%
教育	文系	2	5	7	1	2	3	10	12	6.6%
	理系	1	1	2	0	0	0	2		
芸術		0	0	0	0	3	3	3	3	1.6%
その他		0	0	0	2	8	10	10	10	5.5%
合計		51	42	93	22	68	90	183		
		50.8%			49.2%			100%		
(昨年)		64	33	97	33	65	98	195		
		49.7%			50.3%			100%		

【8】八王子東高校の進路指導

～生徒のためにできることは何でもやろう～

基本方針

- (1) 縁あって入学した生徒を3年間の高校生活の中で大きく変身させて育てる。
- (2) 自分を見つめ、社会の変革に関心をもち自分の未来を切り拓く生徒を育てる。
- (3) 仲間への敬意と尊重の念を持ち続ける生徒を育てる。

具体的方策

5教科7科目を学習する集団をできるだけ大きくして最後の最後まで集団で走る。

- (1) 見通しの良い進路指導
- (2) 面倒見の良い進路指導
- (3) 風通しの良い進路指導

【9】28期生学年団としての取り組み

【1】28期生の状況

- (1) 自校作成入試一期生である。(低倍率の結果……。)
- (2) 新課程一期生である。
- (3) 総合的な学習の時間、3年選択科目枠の減少など課題を抱えてのスタート。
生徒・保護者に対してどのように責任を果たすか? →28期生担任団から汗をかこう。

【2】指導方針を明確にする(あたりまえのことを明確な言葉で表現する。)

- (1) 3年間の具体的な進路ストーリー。(2学年10月が転換期である。)
- (2) 授業の延長線上に入試がある。(学校で学習する習慣を身につける。
定期考査後の特別時間割。夏期講習・冬期講習の充実。
小論文・自由英作文の個別指導。センター終了後も登校して学習する。)
- (3) 学習や行事を通して、クラスの仲間、部活動の仲間と協調・自立の精神を養う。
(3年しらかし際が終わったら学年全員で受験モードに突入する。)
- (4) 良識ある生活態度をもって高校生活を送る。
(遅刻指導, バランスを欠いた行動があった場合などには担任団全員で指導する。)

【3】担任団の学習会

- (1) 個人面談内容の確認・共有化。(なるべく職員室で面談する。)
学年スペースの一角に進路コーナーを作る。(入試資料, 教材を確保する。)

- (2) 学年教科担当を通した、各教科間の連絡・調整。
- (3) 総合的な学習の時間、小論文・進路指導(大学研究など)を効果的に関連づける。
- (4) 選択科目調査への対応の仕方。
(時期を早めて、進路部とタイアップして進路意識を高めさせる。)
- (5) 進路データの読み方。(進路部と共同で研修会を開く。)
- (6) 具体的な出願指導。

【4】指導方針をどう伝え、徹底するか？

- (1) 対生徒、対保護者：生徒・保護者に対して担任団をいかに信頼させるか？
学年集会、進路講演会、学年便り、学年保護者会(クラブ合同保護者会)
- (2) 対教員：学年独自ではなく学校組織として指導していただくか？一情報の共有
 - ① 各分掌担当がそれぞれの場で責任をもって発言する。
 - ② 学年集会・保護者会資料の公表。
 - ③ 進路調査結果、実力テスト(模試データ)、学年団の分析結果の公表。

【10】28期生担任から

- ① 組() 進学者 25 名、うち国公立 15 名。私大合格のうち 4 名は辞退して浪人中。

勉強も部活も行事も打ち込んだ生徒が多かった。応援団に 14 名が参加したが、面接で勉強との両立を約束させた(生徒も望んでいた)。夏期講習も出て、最後まで粘り強く勉強した生徒が合格している。センター後も学校で勉強する生徒が多く、友人関係がプラスに作用し、最後まで諦めなかった。「センターが終わったら即前期、前期が終わったら即後期」と指導した。中には私大に合格して気持ちが楽になり、国立に合格した生徒もいた。

- ② 組() 女子で各クラス 4、5 名成績が心配な生徒がいたので、選択科目調査に早めに取りかかり、モチベーションを上げる機会として、学年全体で 1 つのイベントとして取り組ませた。修学旅行が終わって、勉強に切り替えさせ、センター終了後はできるだけ登校して、みんなで勉強させた。よく言われるように、受験は団体戦である。最後まで諦めさせず、科目を絞らせないようにしたが、それが良かった。やる気を起こさせるため 2 年からほめて育てたが、その結果高い目標に向かって勉強した。力が及ばず浪人する生徒も多いが、今後に期待している。

学力的に中間の生徒は早めに詰めて、可能なら、目標を首都圏以外の国公立に広げるといい。頭が良すぎて、論理的に説明する力が不十分で浪人した生徒がいたのは残念だったが、来年はやってくれると思う。

③ 組() 3年の選択決定時に行った担任団での学習会が役立った。また、生徒に書かせた学年共通の面談資料が使いやすかった。出願指導時も学年全体で取り組んだのが良かった。学校の授業・講習を大切にして、予備校へ行かなかった生徒が結果を出している。また、友人と一緒に勉強をし、良い影響を受け、大きく伸びて難関大学に受かった生徒がいる。中には5つのクラブに入っていた生徒がいたが、合格した。

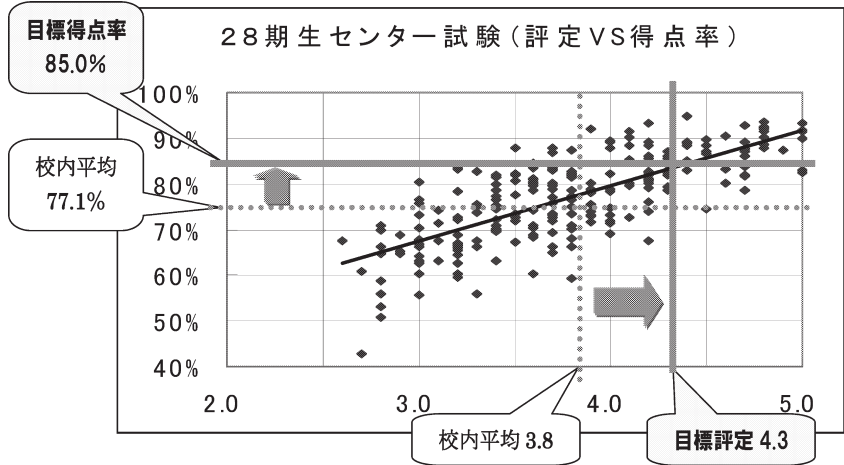
④ 組() センター追試を受けた生徒がいる。初日に気胸で欠席したが、保護者が願書をよく読んでいて、慌てることはなかった。だから、家の人にも願書を読んでもらったほうがいい。行きたい大学を受けてもらいたい。受けても行く気がない大学の受験はよく考えたさせたほうがいい。後期で受かった生徒が、「頑張れば後期でも受かるって本当なんですな」と喜んでいて。また、中央大(法)やお茶の水女子大に受かり浪人したいという生徒がいたが、生徒と共に考え、進学を促した。

⑤ 組() 考査後の70分授業を利用して、リスニング対策を行い、成果を挙げることができた。「70分授業が都合が良いのは数学だけではないか」という声があったが、英語でも70分が役立った。センター800点、二次150点のセンター重視の首都大看護で逆転が起こった。2名受けたうちでセンターで高得点でA判定だった生徒が不合格で、C判定だった生徒が合格した。二次は小論文で、差がつかないと思ってはいけけない。文を書くのが得意なら、最後まで諦めないこと。小論文の指導をしてくださった国語科の先生の力も大きい。クラスは国公立しか受けなかったのが12名と極めて多く、国公立志向が強い生徒が集まっていた。担任がそのように指導したわけではなく、生徒は私大対策の勉強をする時間をとるより、国公立に集中したいと言っていた。本校は国公立に強い高校ということだから、これでよいのではないか。入学時は他の進学重点校と比べて、それほどでもないが、卒業時は結果を出している。予備校に頼らず学校の授業を大切にし、センター後も学校へ来て勉強するというやり方が本校の強みであり、それが良かったと思う。

【11】28期生(316人)の3年間における遅刻の回数と評定平均

	0回		1回	2回～9回	10回～30回	31回～
人数	29	43	40	103	65	38
評定平均	4.1	4.0	3.8	3.6	3.5	3.1

【12】



千葉吉裕氏 レジューメ

シンポジウム

「変化する高校生と大学への期待～高校から見た立教大学～」

高等学校における キャリア教育の実態と課題

東京都立晴海総合高等学校 教諭

キャリアカウンセラー

千葉吉裕

①

キャリア教育に 対する誤解

②

平成11年12月 中央教育審議会答申

「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について」

望ましい勤労観・職業観及び職業に関する
知識や技能を身につけさせるとともに自己
の個性を理解し、主体的に進路を選択する
能力・態度を育てる教育

③

「キャリア教育推進に関する総合調査研究協力者会議」報告

平成16年1月

キャリアとは

個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の
連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係づけや
価値付けの累積

キャリア教育とは

「キャリア」の概念に基づき「児童生徒の一人一人の
キャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを
形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育



児童生徒の一人一人の勤労観・職業観を育てる教育

④

キャリア*career*とは？

働くこと(work)

学ぶこと(academy)

遊ぶこと(hobby)

暮らすこと(family・community)

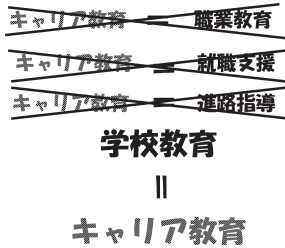
⑤

キャリアとは人生そのもの

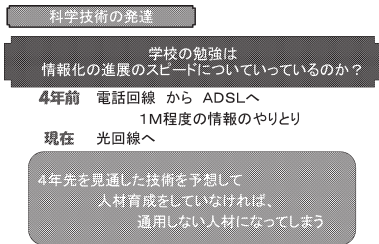
学校教育では、キャリアの基礎を育成

能力や態度、価値観を形成
きっかけを与える

⑥



⑦



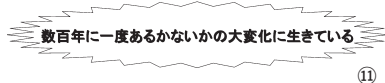
学校の勉強は実社会に通用するの？

⑨

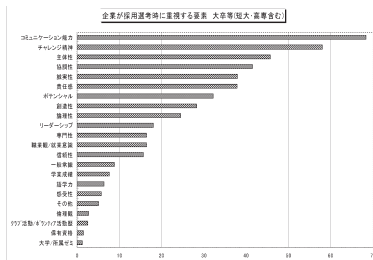
新しい科学技術により、
古い科学技術で、成り立っていた産業は縮小・淘汰へ

19世紀初頭 蒸気機関が発明された時と類似・……
人や動物がおこなっていた作業が機械に移行

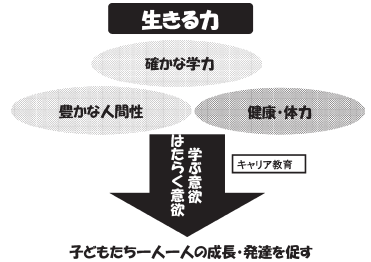
産業・職業が急速に転換していった



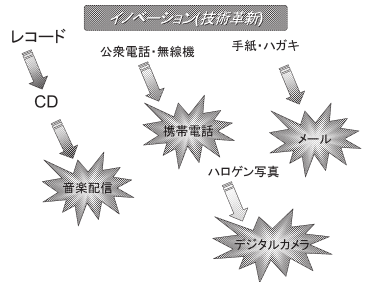
⑪



⑬



⑧



⑩

なぜ、
今、キャリアなのか？

学校の学びは、教わったそばから、
古い知識
古い技能
になってしまっている

新しい知識を学ぶためには
どうしたらいいの？

⑭

変化に合わせ、
教育の転換が求められる



「基礎・基本」の定義の転換 (1992年)

「知識・技能」→「関心・意欲・態度」

(15)

自ら学ぶ意欲

自ら学ぶ態度

自ら学ぶ方法の獲得

(17)

「教わること」
から
「学ぶこと」へ

自分で自分のことを
成長させなければならない
能力・専門性が重んじられる

(16)

今、時代の大転換期

知識基盤社会の到来

Knowledge based Society

(18)

知識基盤社会の特質

- ①知識には国境がなく、
グローバル化がますます進む
- ②知識は日進月歩であり、
技術革新は絶え間なく生まれる
- ③知識の進展は旧来のパラダイムの転換を
伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に
基づく判断が一層重要
- ④性別や年齢を問わず参画することが促進する

(19)

主要8カ国(G8)/教育担当大臣・ノーラム報告書

G8教育大臣会合(2000年4月1日・2日、東京)議長サマリー

主要8カ国(G8)の首脳及び欧州委員会委員長は、1999年のケルンサミットにおいてすべての国、特に当該8カ国の社会経済的発展における教育の重要性を強調した。その信念は、経済的成長、市民としての責任、社会統合を達成するために教育が果たす役割を強調した「ケルン宣言」(以下「ケルン宣言」)の目的と本質の両方に裏打ちされた。すなわち、教育と生涯学習は、**持続的な工業化はもたらぬ能力とつながる知識社会への発展**の中でその柔軟性と変化に対応するための重要な(知識社会への対応)主要な人びとに対するものである。

G8の教育大臣及び欧州委員会の教育担当委員は、2000年に初めて一般に合し、「豊かになる社会における教育の発展を人びと、特に若年層に必要に応じて開く」ことを、我々は、本サミットに先立って東京において、経済協力開発機構(OECD)及び国際教育科学文化機関(UNESCO)を学術的パートナーとして合意を行った。以下は本会合の結論をとりまとめたものであり、2000年7月閣議決定の神岡G8サミット、自らのコミニュメント及び8月以降の関心に関連するものである。

知識社会は重要な機会を提供すると同時に、現実的な危機をもたらすものである。知識社会においては、**高度な学習と知識の集約力に競争的な能力が求められる**。すなわち、学習機会を確保するに当たってその内容及び形態を新たに組織し直すこと、学習者の知的・情動的・社会的要求を迅速に捉えることが求められる。労働市場で求められる知識は日々変化し、すべての国民は教育へのアクセスという機会に直面している。**高い質と十分な量を両方とも確保できることは社会的にも経済的にも大成功の象徴であることが出来るが、そうでない場合は安定した職業及び、その職業によって得られる社会的・文化的生活活動に必要な人々を得る機会としない**に等しい。かつてない速さで知識が更新されている。そのように変化に合った、生涯学習の必要性がますます高まっている。知識社会は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要である。生涯学習は国家発展の基盤であり、経済・社会の発展の基盤であり、個人がその発展に貢献し、また、その発展から利益を得るための能力を造る。また、一人ひとりの文化と国家の統一的な文化の両方を維持・発展させ、文化の継承と発展の両方を確保する。

(20)

これからの社会で求められる教育は

知るための学習 learning to know
(何かを)するための学習 learning to do
(何かに)なるための学習 learning to be
共に生きるための学習 learning to live together

G8教育大臣会合(2000年4月1日・2日、東京)議長サマリーより

(21)

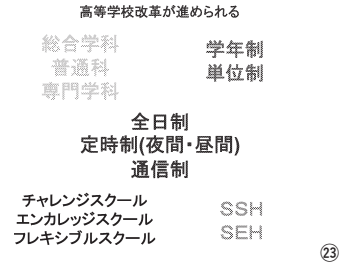
少子化の時代にあっては

競争により頂点を高める方法は
効を奏しない



一人一人の個性をみつけ、
伸張する時代に

(22)



四年制大学
学習能力の高い生徒を獲得を希望

同じものを学んでいる時は
普通科目によるテストで概ね判断できた

知識基盤社会の顕在化にともない、
学習能力の高い生徒は、この方法では獲得できない

(25)

1970年代
オイルショックをきっかけに
製造業のFA化・OA化の進展
労働集約的でなくなりました

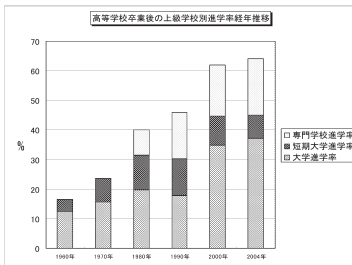
ブルーカラー



ホワイトカラー

ビジネス社会へ

(27)



(29)

『知』の多様化

- 学校の在り方を改める
 - 教授方法を改める
 - 獲得した「知」への評価
-

(24)

**受験という社会装置は
すでに機能不全を起こしている**



教育の転換

受験に縛られた教育から脱却した時
新たな指導が求められる

「キャリア教育」「総合的な学習の時間」など

(26)

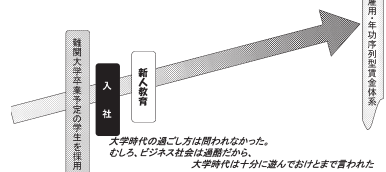
繊維・鉄鋼
↓
機械・化学工業
↓
金融・証券・流通
↓
現在は……

より高度な教育が
必要になり、
大学への進学希望
者が増える

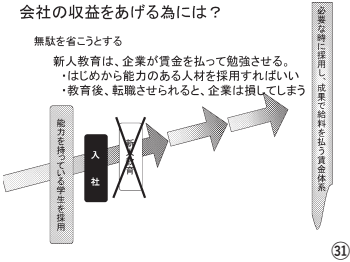
(28)

新人教育で伸びる学生は？

難関な大学入試を
突破した学生は伸びるかもしれない



(30)



少子化の時代に大学は どのように生き残るのか

他の大学との差別化

難関大学では学べないような
カリキュラムや教育環境の実現

**学びたい内容や学びたい教育環境で
大学を選ぶ時代に**

33

大学設置基準大綱化

大学審議会「大学教育の改善について」(1991)

大学設置基準が大綱化

↓

**各大学毎でカリキュラムが
異なるようになった**

32

大学の社会的役割の変化

- 1 研究教育の拠点
- 2 専門的な職業人の養成
- 3 幅広い職業人の養成
- 4 教養教育
- 5 特定の専門分野(芸術、体育等)の教育・研究
- 6 社会貢献
(地域貢献・産学官連携・国際交流等)

34

地方の人材の囲い込み

地方の大学の役割が変化

都市部の大学は……

35

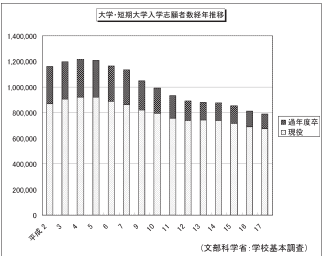
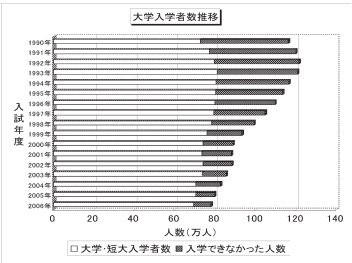
2004年度入試 志願者数83万人

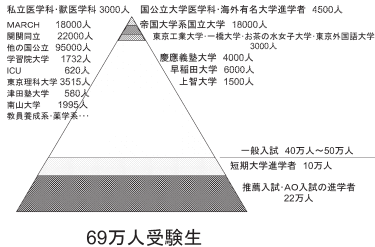
2005年度入試 志願者数79万人

2006年度入試 志願者数78万人

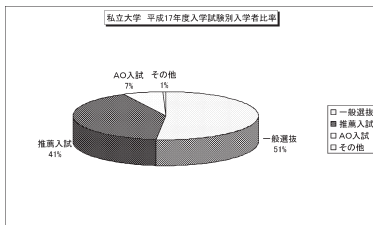
2007年度入試 志願者数69万人

36



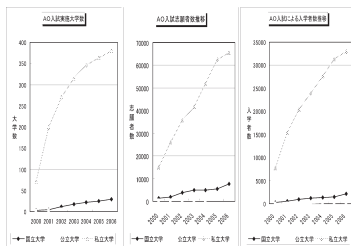


39



(文部科学省・国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要)

41



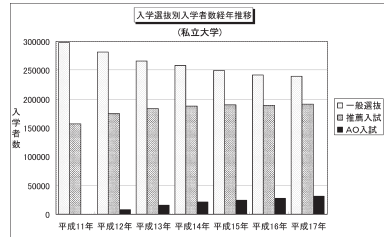
(文部科学省・国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要)

43

受験費用 約20万円
入学しなかった学校への納付金 約20万円
学校への納付金 80万円～140万円
通学費+教科書代 40万円×4
学校への納付金(2,3,4年次) 80万円×3

国公立、安く見積もって
500万円～600万円

45



(文部科学省・国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要)

40

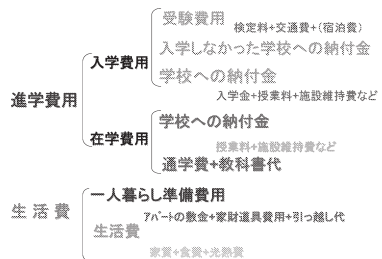
四都県の進学希者数は？

	大学進学者	短期大学進学者
東京	88802	6441
神奈川	43973	4983
埼玉	35735	4567
千葉	33404	3656
計	201914	19647

22万人 平成16年度卒業生のデータ

(学校基本調査より)

42



44

進 学

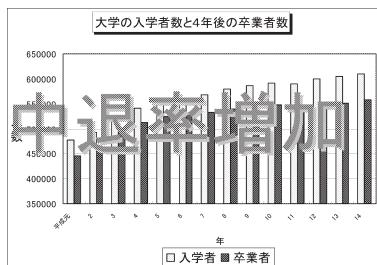
生涯の中で、大きな支出の一つ



費用対効果の検討？

46

資料2 (千葉吉裕)



(47)

自己責任の時代

高等教育の多様化
雇用の多様化
専門性・能力を問われる時代へ
これからの時代に求められるもの

自分で自分を成長させる態度
選択できる能力・態度

(49)

団塊の世代の引退により

企業は若者の抱え込みが始まっている
バブルの時の二の舞にならぬよう警戒

フリーター問題は、
シルバーの雇用と
女性の雇用の問題へ

自分で自分の能力を伸ばせることが期待されている

(48)

高校卒業後の出口の保証ではなく、

未来社会で、

活躍できるような人材の育成

(50)

約1900名の卒業生を輩出

わずか8年間で、
卒業生はこんな活躍をしています

・「CELL」会長		Y君 (2期生)
・慶応義塾大学	塾長賞受賞	I君 (1期生)
・慶応義塾大学	国費で研究	W君 (2期生)
・専修大学	総代	Oさん (2期生)
・Apish	美容師	S君 (3期生)
・ジャニーズの『ウエストサイドストーリー』に		
オーディション合格		S君 (4期生)
・株式会社jig.jp	アプリプランナー	S君 (5期生)

(51)

教わる能力や態度に長けた生徒より、
自ら学ぶ能力と態度を備えている
生徒の方がこれからの時代に
合っていると思いませんか？

(52)

坂詰貴司氏 レジュメ

変化する高校生と大学への期待－高校から見た立教大学－

2006年07月13日
立教大学池袋キャンパス

今後の教育は連携が重要

芝中学校・芝高等学校
数学科 坂詰 貴司

1 高大連携の現状

①高大連携とは

平成10年の中教審の答申から本格的に始まる

参考資料①参照

②現状

高校と大学のそれぞれの思惑により実施?

高校側 総合的な学習等に利用→担当は進路指導関係の教員

大学側 受験生集めの手段→担当は事務職員

生徒が主体

参考資料②参照

お互いがお互いを把握していないにもかかわらず、

連携だけが先行している

2 中高一貫校における高校生の現状

①最近の生徒の様子

②生徒が大学を選ぶとき

③生徒が歓迎する大学の取り組みとは

④立教大学に望むこと

⑤進路指導の実態と課題、それを受けての大学への注文

3 高大連携の将来への提言

生徒中心から教員中心へ

高校側 進路指導関係の教員＋教科担当の教員

大学側 事務職員＋教員

進路指導から教科中心の連携へ

・入試問題を目的とした連携

・教授法の連携

・教育実習を通じた連携

・連続的なカリキュラム作成のための連携

教育関係者だけではなく、様々な分野のみなさまからお知恵を
拝借することが大切ではないか。

参考資料①

中央教育審議会

1998/11/06 答申等 初等中等教育と高等教育との接続の改善について

(中略)

両者を見通した教育の在り方を考えるに当たっては、まず高等学校と大学の接続の改善を図ることが必要である。これまで高等学校と大学との関係は、主として大学の入学者選抜を接点とするものであったが、今後はそれぞれの役割分担に基づき、両者を通じて教育を効果的に進めていくことが必要となっている。すなわち、各大学はその求める学生像を明らかにするとともに、高等学校は生徒の能力・適性等に応じて進路指導や学習指導を充実すること、また入学者選抜においては高等学校までの教育の成果を適切に評価して、各大学の個性に応じた入学者を確保すること、さらに高等学校までの教育の成果を大学において更に発展させることなど、両者の接続の改善を図ることが極めて重要になると考えられる。そして、このような両者の接続の改善を図ることは、現在進めている初等中等教育及び高等教育それぞれの改革をより一層推進するためにも不可欠であると考えられる。

このため、初等中等教育と高等教育との接続の改善について、次のような事項を中心に検討する必要がある。

- (1) 高等学校及び大学の役割分担の明確化と両者の教育の連携について
- (2) 高等学校と大学との接続を重視した大学入学者選抜の改善について
- (3) その他の関連する施策について

全文は以下のサイトをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/981101.htm

参考資料②

昨年度の高大連携に関する集まりの例

- ・ 高大接続のための大学入試シンポジウム～ 高大接続とＡＯ入試 ～
9月5日（月）13:00～6日（火）15:00
筑波大学
http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/news_topic.php?id=311
- ・ 第3回高大連携教育フォーラム「新局面を迎えた高大連携」
（京都高大連携研究協議会）
12月9日（金）13:00～17:00
キャンパスプラザ京都
http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/news_topic.php?id=366
- ・ シンポジウム「理系ＡＯ入試を通じた高校と大学の接続
—21世紀における科学者養成の新展開を目指して—」
3月21日（火・祝）13:00～17:30
神戸大学発達科学部
http://www.h.kobe-u.ac.jp/event/2005/symposium_20060321.html

参考資料③

参考になるサイト

広島大学高等教育研究開発センター
<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

発表者の文章

<http://benesse.jp/berd/center/open/dai/between/2002/0708/bet18636.html>
<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/viewer.php?i=181>

鷺尾雄慈氏 レジューメ

平成18年7月13日

「変化する高校生と大学への期待」

— 大学改革・大学制度改革は高校生や保護者にどのように受け止められているか —

新潟県立三条高等学校
教頭 鷺尾 雄 慈

- 1 新課程になつての生徒の変化
 - (1) 前回の改訂でも同様だったが、中学校での指導内容の減少
 - (2) 内容が少ないので「とにかく覚える」で点数が取れて、「絶対評価」される中学校
 - (3) 「機能的」で「帰納的」な学習を身に付けさせ、「相対的」な評価が導入される高校
 - (4) ますます重要になった「入学オリエンテーションから連休前までに高校生にさせる」指導
 - (5) 内容を精選して、基礎・基本のできる絶対量を増やすこと
- 2 最近の高校で行われている進路指導
 - (1) 高校生活の意義は「社会で活躍するための基礎学力」を身につけると同時に「自分の生き方」を考えること
 - (2) 国際化情報化社会で情報過多による進路「迷子」にさせないために
 - (3) 「総合的な学習の時間」を使いこなす
- 3 生徒への情報提供と指導
 - (1) 高校生の大学選定基準の初期値は「生育歴」付加されるのが「偏差値」プラス α が「指導」
 - (2) 進路指導の本質は、「将来の自分を考えることから逆算」させること
 - * 自己理解、目的（将来設計）、その手段となる基礎学力
 - (3) 「目的」を優先した上で、「目標」を設定させる
 - (4) 「目的」で可能性を広げ、「目標」に向かって努力させる
 - (5) 学部や学科の名前が違っても学ぶ内容は共通項が多いということを理解させる
 - (6) 法学部を卒業した人の多くが法曹界、文学部を卒業した人多くが出版社やマスコミに就職しているのではないということ
 - (7) 専門学校を出ても、大学を出ても、看護師国家試験受験資格は得られるが…、違いは？
 - (8) 大学生は「どこを卒業したか」より「何を学んだか」「何ができるか」が問われていること
 - * 学歴→学校歴→学習歴（なにをしたいか、なにをしたか、なにができるか）
 - * そこで、「COEや特色G Pを知っているか」の投げかけ
 - (9) SSHやSeiHiは理科・数学や英語の学力向上ではなく、「学ぶ目的」を知ることに役立っている
- 4 保護者への情報提供と指導
 - (1) 20年前と今では高校生の進路状況が大きく異なっていること
 - (2) 生徒も保護者も大学に対する正しいイメージをつくっていくこと
 - * 生徒はもちろん、親の受験に対する認識がないといけないこと
 - * 「地域」で志望校の網をかけること
 - (3) 20年前の大学と現在の大学は違うことを認識させること
 - * 大学改革の動きや大学院についても知る必要がある
 - 偏差値以外の「ものさし」としての「COEや特色G Pを知っていますか？」の投げかけ
 - (4) 保護者が子どもに無意識に条件をつけている場合がある
 - * 逆に「子どもの希望や主体性に任せる」でいいのかという場合もある
- 5 まとめに代えて
 - (1) 「皆と同じでなければならないこと」「皆と違っていいこと」「皆と違わなければならないこと」を区別させること
 - (2) 進路指導担当教員が自信をもって勧められる「何か」が具体的ににあること
 - * 入学時の難易度以上の卒業時の付加価値を保護者は求めている、その「媒体」が教員
 - (3) 「学びの中身」まで指導できる教員が少ないことも事実
 - * 「偏差値ものさし」は、人によってスケールが違うこと
 - * 知らない人ほど、「偏差値ものさし」しか頼る基準がないこと
 - (4) シンプルでわかりやすい「問題」「制度」ほど、生徒にも保護者にも教員にも説明しやすい。

高校生の変化は学力低下でない

- 中学校での指導内容減少による「とにかく覚える」
- 「とにかく覚える」では通用しない量の多さへの戸惑い
- 簡単に入手できる「予習情報」
- 場合分けの概念への戸惑い
- 対策は、「内容の精選」「学習時間の確保」「自分でやるしかない」と自覚させ、「できることを増やすこと」を積み重ねていくこと

①

高校1年の最初で差がつく分野

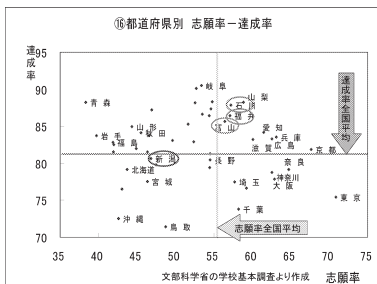
- 英語→長文読解
 - 数学→2次関数の最大・最小(場合分け)
 - 国語→古文と漢文
- ◆ 中学の「貯金」では、食べていけない分野

③

さらに2年の秋以降では・・・

- 英・数・国の3教科から、理・地歴公民を加えた5教科へ
- 模試は、センター対応(マーク模試)と2次対応(記述模試)の2本立てへ
- 模試の範囲はどんどん広くなる
- 「数」「量」と「質」の拡大
- ◆ 手が回らない、手がつけられない
→諦めへ

⑤



⑦

③【必須問題】 模試の問題(当面の目標は50点) 解説

2次関数

$$y = x^2 - 8x + 1 \quad \dots (※)$$

について、次の問に答えよ。

- (1) 2次関数(※)のグラフの頂点の座標を求めよ。
(平方完成すれば終わり(これができる!と問題))
- (2) $0 \leq x \leq 3$ における2次関数(※)の最大値と最小値を求め、それぞれの値をとるときのxの値を求めよ。
(Kの値で場合分けして、求められるか?これが、できる生徒は高校数学のハードルを超えたことになり、数学で諦めることはない。)
- (3) Aを0以上の実数とし、 $0 \leq x \leq A$ における2次関数(※)の最大値と最小値を求めよ。
(Kの値で場合分けして、求められるか?これが、できる生徒は高校数学のハードルを超えたことになり、数学で諦めることはない。)

河合塾の模試問題より抜粋

②

成績上昇者の学習

- 国公立大学に進学したいという「強い」意志
 - 最低、平日2時間・休日3時間の学習確保
 - 古典は予習で「本文訳」を行う
 - 数学は「課題」「復習」を行い、問題を解く
 - 英語は毎日予習し、授業で確認する
- 3時間の根拠 → 複数科目を毎日勉強する

④

受験生の保護者として
最後に何をすべきか、何ができるか
—保護者が変わらなければ、生徒は変わらない—

新潟県高等学校教頭協会 大学入試専門委員
鷲尾 雄慈

⑥

前期試験と後期試験2回のチャンスがあるが・・・

- 前期定員7割、後期定員3割が平均だが、後期は廃止、縮小の方向で、前期一発勝負の流れがある
- 後期は「定員保留の2次募集」的な側面が強く、同一大学学部では、前期より後期のほうがセンター試験の必要得点は高い
- 前期と後期の入試科目は異なる場合がほとんど

⑧

新潟大が第1志望なら、自動的に
市外・県外に出る覚悟が必要

- 前期: 東北(工)83% → 後期: 新潟(工)77%
北海道(工)79% ✕
- 前期: 新潟(工)71% → 後期: 山形(工)71%
富山(工)68% ✕

70%を切ると大学は選べない
60%を切ると国公立は厳しい

⑨

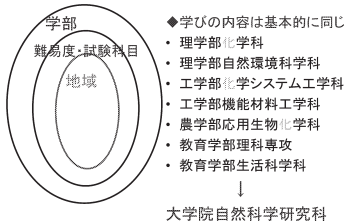
東大が難しいのは、2次試験の
科目数が多く、配点が高いから

- 東大文系: 国語・数学・英語・地歴・地歴
- 一橋: 国語・数学・英語・地歴 ✕
- 東北文系: 国語・数学・英語 ✕
- 千葉(法): 国語・数学・英語

- 新潟(法): ✕ 英語・小論文

⑩

志望校の考え方



⑪

大学改革と大学院の充実

- ◆ 認証評価機関による外部評価の義務付け
(大学評価学位授与機構、大学基準協会、日本高等教育評価機構)
- ・ 特色GP(特色があり効果がある教育を支援)
- ・ 現代GP(社会的要請の強い課題解決を支援)
- ・ 医療人養成プログラム
- ・ 教員養成支援プログラム(指導力のある教員養成)
- ◆ 理系は大学院進学が前提となる
- ・ 専門職大学院形成プログラム(例えば、弁護士)
- ・ 21世紀COE(世界トップレベルの研究支援)
- ・ 大学院教育イニシアティブ(若手研究者養成支援)

⑫

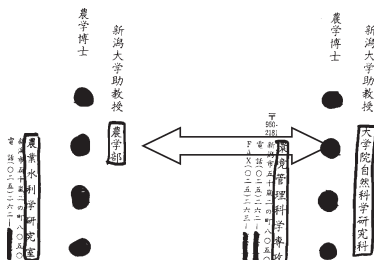
社会に通じる教育重視

即戦力へ現場体験
学年・学部の壁排除も

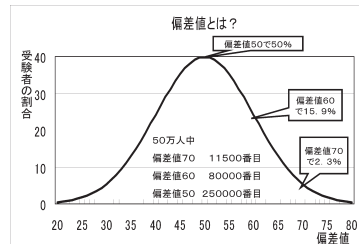
「即戦力」へ現場体験
学年・学部の壁排除も

朝日新聞の記事より

⑬



⑭



⑮

新潟県内の某高校の場合

⑪

（金 田 一）

図 3 振動を及ぼさうとする伝達に関する記述として簡便な定式のもの。次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- 解 1 問 次の図1(問1～9)に答えよ。 解答番号 ～ (配点 15)

- 性質も異なることにより、金属と水素からアンモニアを直接に合成することが可能になり、生態系が向上した。水の H_2O に代る化学物質のうち、アンモニアが貯蔵されるものの組成に対して有利なものは、下の①～④の中から最も適切なものを1つ選び、その番号を下の空欄に記入せよ。

- 問 題 ● ● 基礎アノモニウム

- 図 2 は所立地における公平価値の利目に属する用途として取り得るものの数、当

- エマレンを捜索させて取り戻す美談が、奇蹟の歌などに聞かされる。
 アネトアリスは**悪魔**に誘われる。
 ケイ達は暴徒殺しをして、最後は母と夫婦愛に胸を打たれる。
 種々あるシチュエーションは純潔に用いられる。
 小説を書くには、バーネズ・ゴードンと**愛**に訴えられる。

- ④ 曲例題は式によって分類するので、異色ボールに入れて区別する。

- ④ 曲線は式によって分割するので、両色紙に入めて貼る。

- [illegible]

- ⑤ 真リンは真気中で燃焼することがあるので、水中に保管する。

- で十分に食う。

- 問 4 食塩の分厚・層状性に関する記述として不適切なものは、次の①～④のうち

- 100% 90% 80% 70% 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0%

- ④ 企業が事業を分離して、連結の上で内分を算出する。

- ② インクに含まれる有機物の溶解性、クロマトグラフィによりそれぞれの成分

- ⑦ 大豆半の量を、ヘキサリンなどの非溶媒液で懸濁して取り出す。

大学入試センター試験より抜粋

- ①

今春は、久しぶりに、前期不合格→後期合格が出たが、たまたま、後期の倍率が低かっただけ！

前期不合格大学は、東北・千葉・金沢など

21

23

5点 $\times$ 3=15点！！

- ④ Sarah's parents did not want their daughter to bother their neighbor.
⑤ When Sarah was in her classroom, a student introduced himself.
⑥ The teacher was worried that she and her children would make the law.
⑦ While they were walking, a truck approached the young man's family from behind.
⑧ Mr. Neal offered to stop in Koonman for his father going out to the next town.
⑨ Mr. Neal was kind to the young man because he had a daughter around his age.
⑩ Sarah and the young man never became friends although they both knew Mr. Neal.
⑪ Mr. Neal had to make it possible for the 大学入試センター試験と市立校

0000

18

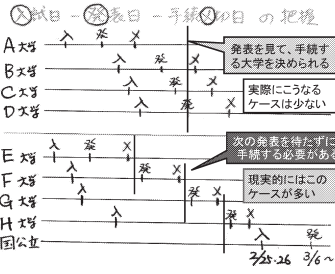
[illegible]

20

新潟大	国○ 私×	国×	私○	私立大
法学部	8	<	1	法政・法
	2	>	4	日大・法
経済学部	10	<	0	法政・経済
	2	=	2	日大・経済
	1	>	9	県立新潟女子短大

[illegible]

24



(25)

2. 設置基準から見た相違点

	専任教員	教員資格	職員
大学	30名以上	教授は博士学位又は助教経験 助教授・講師は修士・博士学位	学長・教授・助教 講師・助手・事務員
専門学校	17名以上	専門学校又は通算6年の修業・従事 大学後2年以上の従事	定めなし

(27)

■第二種奨学金(利息付) 奨学金は「きぼう21」の3万円なら、返済は月1万円(13年返済)

区分	奨学金(自由選択)
大学・短大・高専(4・5年)・専修(専門)	3万円・4万円・5万円・6万円・7万円・8万円・9万円・10万円から選択
私立大学 第1種奨学金課程	10万円を返済した場合に限り、4万円の増額可
私立大学 第2種奨学金課程	10万円を返済した場合に限り、2万円の増額可
専門学校	6万円・7万円・8万円・9万円・10万円から選択

第1種奨学金は、私立自宅外・6万4千円の無利子貸与だが、「成績条件」「収入条件」が厳しく、採用には限らない

返済例(1年返済、元金1万円、元金10万円、元金15万円、元金20万円)

貸与月額	貸与総額	返済総額	月金額	返済回数
30,000	1,440,000	1,507,647	9,663	156(13)

(29)

増える指定校と評定平均値

- 進学実績のない大学からの指定が増える
- 利用するのは特定の大学のみ
- 一般推薦で、継続的に進学している高校を指定校とするのも一案
- 評定平均値には「高校間格差」と「高校による成績内規の差」
- 「評定平均値が高い」≠「学力がある」
- 「評定平均値が高い」=「真面目に努力した」

(31)

大学と専門学校の違い

	授業年数	卒業の最低条件	認可	設置費用	設置者(私立)
大学	4年以上	121単位以上(1年間)	国	自由体等の寄付	学校法人
専門学校	1年以上	800時間以上(1年間)	都道府県	自治体等の寄付 民間財団	学校法人 個人 宗教法人等

	必要な施設	設置努力施設
大学	運動場 学芸室 会議室 事務室 図書室 教室 図書館 実務室 学生自習室 学生控室	情報処理施設 語学学習施設 体育館以外のスポーツ施設 講堂 寄宿舎 課外活動施設 厚生補導施設
専門学校	図書 教員室 事務室	図書室 保健室 教員研究室

	最低校舎面積 800人定員の場合	1人あたり	(参考)高校・各種学校
大学	4,980㎡(文系) 6,660㎡(理系)	6.2㎡ 11.230㎡(理系)	高校の生徒1人あたりの面積は 14.0㎡
専門学校	2,540㎡(工業・農業・看護等) 2,100㎡(商業・家政等)	3.1㎡ 2.7㎡	10㎡以上 各種学校の生徒1人あたりの面積は3.31㎡以上
専修学校	1,878㎡(一般課程・予備校)	2.38㎡	

(26)

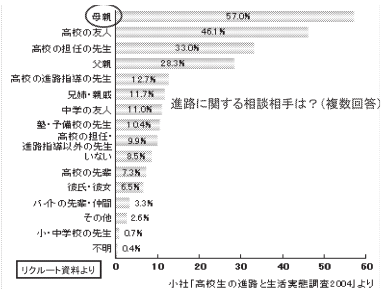
家庭学習時間の変化

新潟県内の某高校の場合

	0分	30分	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	計				
1年5月			3	4	8	7	11	40				
1年9月	1	2	8	4	6	5	10	40				
2年5月			6	2	9	8	4	39				
2年9月	2	1	6	11	12	5	1	38				
3年5月			1	1	7	6	9	38				
3年9月			1	1	3	3	6	7	9	1	5	40

1年秋に学習しない習慣ができると、3年夏以降になるまで学習時間は増えない。1年夏までに、増加分3時間の学習習慣の確立が必要

(28)



(30)

地方からの(私の)私大受験指導

- センター利用私大の活用
一般入試1校=センター利用5校分の費用
- 「バレンタイン」までに1校ゲット!
- 「全学入試」「地方入試」併願でチャンス拡大
- 出願しておき、合格状況で受験回避もある
- 「2泊3日」を2回までを原則とする
- とにかくセンター試験で点を取れ!
- 国私ともにセンター試験高得点で好展開

(32)

シンプルな入試問題と入試制度

- 他大学の入試制度改革への追従と入試日バツティングの対応は必要だが...
- ほとんどの保護者と多くの高校教員は個別の大学についての知識などないと考えたほうがいい(特に地方・教員は地元国立出身者が多い)
- シンプルな問題 → センター試験と東大
シンプルだから対策をたてやすい

33

大学教育開発研究シリーズ No.3

変化する高校生と大学への期待—高校から見た立教大学—

2007 年 3 月発行

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
TEL : 03-3985-4624 FAX : 03-3985-4615
<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/cdshe>
e-mail:cdshe@grp.rikkyo.ne.jp

印刷 精文堂印刷株式会社

〒116-0012 東京都荒川区東尾久 1-36-4
TEL : 03-3985-6211 FAX : 03-3892-1544